

政治的社会化における連続と不連続(2)予備的考察

OKAMURA, Tadao / MATSUMOTO, Masao / 松本, 正生 / 岡村, 忠夫

(出版者 / Publisher)

法学志林協会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法学志林 / 法学志林

(巻 / Volume)

93

(号 / Number)

4

(開始ページ / Start Page)

89

(終了ページ / End Page)

133

(発行年 / Year)

1996-03-21

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00004908>

政治的社会化における連続と不連続 (二)

— 予備的考察 —

岡村 忠夫
松本 正生

はじめに——問題の所在

〔I〕「政治家不信」と「政治不信」

- 一 政治家像
- 二 「政治不信」の構造 (以上九十三巻二号)
- 〔II〕「政党支持」と政治的メンタリテイ

- 一 政党への志向性と「保守—革新」枠組
 - 二 政党識別パターンと「嫌いな政党」
 - 三 政党イメージと「リアリズム—アンチ・リアリズム」枠組
- 付 単純集計表 (以上本号)

〔II〕「政党支持」と政治的メンタリテイ

一 政党への志向性と「保守—革新」枠組

いわゆる「保守—革新」の枠組みが存在していた時、子どもたちは小学校の低学年から政党名を認知し、中学生こ

政治的社会化における連続と不連続 (二) (岡村・松本)

ろからは、デモ、ストなどの争点と政党認識等をつ結びつけていた。⁽¹⁾しかし、高校生でも、選挙で現実に投票する年齢にはまだ遠い。本稿が対象とする二〇歳前後の若者は、政党について、どのような意識を持つのであろうか。政治的社会化を、成年期まで延長しようとするとき、この年齢層の政党についての意識は重要であろう。そして、「保守革新」の枠組みが崩れて、政党の離合集散がみられる今日、若者は、政党についてどのような意識を持つのであろうか。

日本人の政治意識を語る際、キーワードとして用いられるのが、いわゆる「無党派層」である。そして、この「無党派層」の増大は、有権者の間での政党への拒否感情の現われであり、なおかつ、この先それが、政党のみならず、政治そのものへの極度の不信やシラケへと発展しかねない兆候であると解釈されることも多い。

しかしながら、「無党派層」とは、それほどはっきりとした「政党嫌悪層」なのだろうか。彼らはまた、政党とは一線を画した存在としての、明確な「独立派 (independent)」であるという自覚を有しているのだろうか。たとえば、昨春の東京、大阪の知事選挙における「青島・ノック現象」についても、確かに脱政党ないし政党拒否的な傾向は否定しえないものの、それにもましてそこには、前回(一九九一年)の選挙で鈴木俊一(前知事)に投じられた票と同じレベルの、アンチ中央、すなわち、中央の大組織間の談合によって決定された候補者に対する拒否反応が、根強く存在していたようにも思われる。

また、「無党派層の増大」とは、言われるほど政治体系の機能を阻害するのであろうか。「無党派層の増大現象」の端的な例証として、各種報道機関の世論調査結果における「支持政党なし」比率の増加傾向が存在する。それは、とりわけここ二年ほどの間に顕著である。ただ、一九九三年七月の総選挙を境として急増した「支持政党なし」層を一

口に「新無党派層」と形容するとしても、この層を、以前からの自民党（ないしは社会党）支持者で、総選挙の後、徐々に自民党（ないしは社会党）から離れて「支持政党なし」となった人々と、総選挙時には日本新党に代表される当時の新しい政党をいったん支持し、その後「支持政党なし」に転じた人々とに大別した場合、両者の間では、政党に対する失望感、言い換えるならば政党拒否度に、大きな相違があると推定できよう。

さらに、「支持政党なし」比率の推移を、年齢階層別に見てみると、一つの注目すべき傾向がみとめられる。このところ「無党派層」が急増しているのは、実は年配の人たち、わけても老年層においてである。つまり、従来通り相場だった「支持政党なし層」の構造としての若高―老低型が、よりフラットなものに変化し、ついに、すべての年齢層において「支持政党なし層」が相対的多数を占めるに至ったのである。これが、いわゆる「新無党派層」の構造的特色である。

「無党派層の増大」が、高年齢層に顕著な傾向だとすれば、それはむしろ、プラスにも評価できよう。これまで特定の政党（もしくは、特定の候補者を介してその所属政党）を、無条件に、多少乱暴に言えば何も考えることなく支持していた人たちが、政治状況の変化によって、何らかの圧力やしがらみから解放され支持や投票をしなくてもよくなったか、あるいは、自分の一票の使い道に思い悩まねばならなくなったが故に明確な意思表示を留保しているというようなこともある。こうした類推を証拠立てる調査結果は、数多い。

「新無党派層」とは、おそらく、一つには限定できない複数の支持の幅、換言するならば、一種の許容範囲のようなものとしての選択の幅を持ち合わせている人たちなのではないか。そして、選挙に際しては、「投票するか・否か」という、次元を異にするもう一つの選択がこれに加わるのだろう。そういう複合的な選択肢ないしは選択空間を保持

する人々が増えつつあるというのが、「無党派層の増大現象」の示唆していることなのかもしれない。

もともと、日本人の政治意識については、「党より人」という言葉に象徴されるように、政党への支持態度や帰属感の希薄さが指摘されてきた。たしかに、選挙制度とかわらせると、「党より人」という態度は、必然的な帰結ではある。日本の選挙、すなわち、議員選挙では、国、地方を問わず、そのほとんどで、複数定員と単記投票とが組み合わされた、大選挙区単記制が採用されてきた。わけでも、国政の中核たる衆議院の選挙制度としての、いわゆる中選挙区制の規定力は大きい。多数派への要件として、同一の選挙区に複数の、それも三人とか四人の候補者を擁立することを政党に要求し、集票の論理、裏返せば、選択の論理として、同じ政党に所属する候補者間での同士打ちを現出させるのが、中選挙区単記制の制度的特性である。

しかしながら、だからといって、有権者はみな、党よりも人を重視して投票してきたわけではない。候補者個人を基準とする選択と、政党を基準とする選択とは、そもそも相反するものではなく、「中選挙区制のもとでは、投票にさいして、投票者は候補者の所属政党と候補者の個人的資質の双方を同時に考慮にいれなければならない」というのが、より実状に近い。投票行動の選択基準を想定するとしたならば、「候補者要因が重要であるとしても、∴政党要因がまったく介入しない、純粹の候補者評価モデルを考えることはできない」⁽³⁾。

「政党支持」という概念を、政党への帰属感や志向性の総称として用いるならば、そこには「人（候補者や政治家個人）への支持」の要素も重なり合っており、「人への支持も含めた政党支持」と理解しておくことが肝要であろう。そして、この脈絡の中で、選挙における「いずれか一人の候補者の選択」の結果を積み上げた政党別得票率と、世論調査における「どれか一つの政党の選択」の結果としての政党別支持率とが、それなりに符合している。すなわち、

「人への投票」と「政党への支持」とが、ある程度の整合性を有していることの例証といえよう。

ただし、このことは、中選挙区単記制において、個人単位の少数代表法的側面と、政党単位の準比例代表法的側面とがうまく機能していたというよりもむしろ、一つの選挙区に複数の候補者を擁立し政権をめざす特定の政党と、単数の議席確保に専念し議席数の安定化をめざす他の政党との間で、一種の棲み分けが成立したことによるところが大きいのではないだろうか。「人への投票」と「政党への支持」とが符合するのは、政党間でのこうした「多元的停滞状況」に、投票する有権者の側が慣れさせられた結果であると解釈することもできよう。⁽⁴⁾

さて、先にも指摘したように、世論調査での「支持政党なし」比率を年齢層にブレイクダウンさせると、二〇代の若年齢層で最も高く、年齢があがるにつれて比率が低下していくという「若高―老低」型の構造がみられ、若年齢層では、「支持政党なし」比率が常に相対的多数を占めてきた。いわゆる「無党派層」は、未成年期における政治的社会化の過程で、着実に形成されていく。たとえば、われわれの一九六八年の調査において、「もしあなたが選挙にいくことができたなら、どの党に投票しますか」と聞いた際、「政党とは関係なく投票する」が高三で三五％であり、政党ではもっとも高い「自民党」の一六％をはるかに上回っていた。⁽⁵⁾そして、成年期の政治的社会化過程でこの傾向は変化し、「無党派層」は徐々に減少していく。若者は、「無党派層」にかんするかぎり、いわば老舗である。今回のわれわれの調査結果からは、その若者の政党への志向性にかんして、どのような傾向を読み取ることができるだろうか。政党への志向性の総称として用いられる「政党支持」とは、「支持する」という言葉の多様性を内包する、まさに、政党への帰属意識の集合を意味しており、「その場の状況とか、判断する人の主観性によって、形が変わる」ところの「あいまい集合」にほかならない。⁽⁶⁾したがって、調査データに依拠する実証的研究においては、まず、「政党支

「持」をどのように指標化するか、より具体的にいえば、どのような質問方式を設定するのか、という態度の測定方法の問題が存在する。「政党支持」を検出する方法としては、報道機関の世論調査で採用されているところの、「どの政党を支持しますか」と聞いて「どれか一つの選択を求める」方式が一般的である。この場合、「政党支持」は、「選択された一つの政党」ごとの「政党支持率（支持政党比率）」として指標化される。この方式、すなわち、「政党支持率質問」は、「政党支持」の指標としてのみならず、単記制でおこなわれる選挙のシミュレーションという、より現実的な機能も果たしていよう。

「政党支持」を捉える方法には、「選択」型の他に、「評価」型の指標も存在する。代表的な方法が、ミシガン大学で用いられてきた「感情温度計」方式である。「感情温度計」とは、「各政党に対する好意度を零度から一〇〇度までの温度で表現してもらおうというものである。すなわち、とくに好意も寄せないが反感も持たない場合を五〇度とし、好意的であればその強さに応じて五一度から一〇〇度まで、反感を持っていけば 四九度から零度までの温度を答えよう」方式である。⁽⁷⁾ 「評価」型には、さらに、各政党に対する態度を、たとえば、「強く支持する・一応支持する・どちらともいえない・あまり支持しない・絶対に支持しない」といった尺度化された段階に応じて選択する、「個別的政党支持尺度」方式なども含められよう。

たしかに、政党間の勢力比をひとまずおいて考えると、多党制下の日本の場合、「政党支持」には、それぞれの政党についての評価やイメージが複合されているであろうと思われる。だからといって、有権者はみな、各々の政党についての、はっきりとした評価やイメージを持ち合わせているとはかぎらない。さらにはまた、すべての政党を、特定の基準にそって同一次元上で明確に順序づけているとも言いきれない。それよりもむしろ、おおかたは、より単純

でコストダウンされたスキーマ (schema) を通じて、政党を認知しているのではないだろうか。⁽⁸⁾ その帰結として、単一の政党が選択されるのではないだろうか。

われわれの今回の調査対象が、未成年者も多く含まれる大学生であることを考え合わせるならば、政党への志向性としての「政党支持」を確認する質問は、やはり、簡便で答えやすい方式を採用するのが、望ましい方法であろう。集団を対象とするこの種の調査では、調査する側と答える側との間に、質問内容にかんする共通コードが成立していることが前提となる。

われわれは、「政党支持」についての最初の質問として、つぎのような内容を設定した。

問19 現在、日本には、自民党・社会党・新生党・公明党・日本新党・新党さきがけ・民社党・共産党などの政党がありますか、あなたには好きな政党がありますか。ありましたら、その政党名をお答えください(複数でもかまいません)。また、なければ、「なし」とお書きください。⁽⁹⁾

「支持する政党」という言葉にかえて、「好きな政党」という聞き方をしてみたが、予想通り、全体のほぼ七割(六九%)にあたる二〇四人が、好きな政党は「ない」と回答し、好きな政党名をあげたのは、三割にすぎなかった(後掲の単純集計表を参照されたい)。「支持政党なし」であれ「好きな政党なし」であれ、若者は、まさに無党派層そのものといえよう。

問20 それでは、好きな政党があるかないかは別にして、選挙で選ぶとすれば、どの政党を選びますか(複数でもかまいません)。また、なければ、「なし」とお書きください。

ところが、聞き方をかえて、「選挙で選ぶとすれば」と尋ねると、今度は、なんと九二%にあたる二七一人もが政

党名をあげ、選ぶべき政党は「なし」というのは、わずかに八%（二四人）である。「好きな政党なし」〓六九%と「選挙で選ぶべき政党なし」〓八%、二つの回答結果間のギャップをどのように解釈したらよいのだろうか。

ともかく、無党派層として括られる若者も、政党を認知する何らかのアンテナを持ち合わせており、それにもとづいて、ある程度の識別をおこなっているということが、ひとまず確認されたといえよう。それでは、九割以上が、選挙で選ぶ政党、言い換えるならば、投票志向政党をあげる、その選択の基準は何なのだろうか。

いわゆる「保守—革新」枠組みは、日本の政党政治にかんする座標軸として長らく通用してきた。もとより、「保守対革新」は、イデオロギー、政策、各政党のラベルやイメージなどが錯綜しあって構成される複雑であいまいな対立図式ではある。さらに、時間的な経緯のなかで保守対立は形骸化し、「保守—革新」枠組みそのものが、すでに崩壊したともいわれている。しかしながら、有権者の心理的なレベルでの、「保守イメージ」のシンボル効果は、政策争点や政府の業績評価などの効果と比較すると相対的に大きく、政党の認知枠組みとしての根強さも否定できない。たとえば、有権者がみずからを保守と革新のどちらかに位置づける「保守自」イメージ¹⁰や、各政党を「保守」・「中間」・「革新」のどこに位置づけるかという「保守政党イメージ」の保有率が、「支持政党あり」層のみならず、「支持政党なし」層においても依然として高いこと、そして、とりわけ「支持政党なし」層については、こうした「保守イメージ」の投票態度決定要因としての有効性が指摘されている。

われわれの調査では、まず、「保守自」イメージ¹⁰にかんして、次のような質問を試みた。

問17 よく政治で保守とか革新とかいわれますが、あなたが自分をどちらかに位置づけるとしたら、保守でしょうか革新でしょうか。

- (1) 保守にはいると思う (2) 革新にはいると思う (3) どちらにもあてはまらないと思う
 (4) 保守・革新の意味がよくわからない

回答結果をみると、六三%にあたる一八八名が、みずからを「保守」か「革新」のどちらかに位置づけている。「保守・革新の意味がわからない」というのは、一一%にすぎない。「保守イメージ」の規定力の強さが窺えよう。また、「革新にはいると思う」という人が、相対的多数の三七%も存在することは、注目されよう。

つぎに、「保守政党イメージ」にかんしては、「保守」と「革新」とを分けて、以下のように尋ねた。

問22 つぎにあげる言葉から、あなたが連想される政党はどれでしょうか。ありましたら、その政党名をあげてください(複数でもかまいません)。

- (a) 保守
 (b) 革新

まず「保守」についてみると、九割以上(九三%)が、「保守」という言葉によって何らかの政党を連想している。政党別では、自民党が圧倒的で、八一%に相当する二三九人がその名をあげている。⁽¹⁾ 新生党や新党さきがけといった旧自民党勢力の比率をもくわえると、若者の間での「保守政党イメージ」の定着を読み取ることができるかもしれない。だが、年齢別の比率を示した2・1表をみると、「保守」とは「自民党」の単なる言い換え、すなわち、党名区分のラベルにすぎないことが類推される。「保守政党イメージ」の定着といっても、それは、政治的な意味での「保守」を起点とするのではなく、「自民党＝保守」というステレオタイプが、年齢を貫通するかたちで広がっていることとあらわれにすぎないといえよう。さらに、二割近く(一九%)が、社会党を「保守政党」として連想しているこ

2. 1表 問22. つぎにあげる言葉から、あなたが連想される政党はどれでしょうか。ありましたら、その政党名をあげてください(複数でもかまいません)。

22-a. 保守

() 内は%

F2. 年齢	全 体	1. 自民党	2. 社会党	3. 新生党	4. 公明党	5. 日本新党	6. 新党さきがけ	7. 民社党	8. 共産党
全 体	295(100.)	239(81.0)	56(19.0)	34(11.5)	13(4.4)	11(3.7)	17(5.8)	18(6.1)	15(5.1)
1. 19歳以下	78(100.)	60(76.9)	22(28.2)	7(9.0)	3(3.8)	5(6.4)	7(9.0)	4(5.1)	10(12.8)
2. 20~21歳	61(100.)	52(85.2)	9(14.8)	7(11.5)	3(4.9)	1(1.6)	2(3.3)	2(3.3)	1(1.6)
3. 22~23歳	56(100.)	46(82.1)	13(23.2)	7(12.5)	2(3.6)	3(5.4)	2(3.6)	4(7.1)	1(1.8)
4. 24~25歳	31(100.)	23(74.2)	9(29.0)	5(16.1)	-(-)	1(3.2)	1(3.2)	3(9.7)	2(6.5)
5. 26~29歳	25(100.)	19(76.0)	-(-)	4(16.0)	1(4.0)	1(4.0)	2(8.0)	1(4.0)	1(4.0)
6. 30~39歳	26(100.)	24(92.3)	3(11.5)	2(7.7)	2(7.7)	-(-)	3(11.5)	2(7.7)	-(-)
7. 40歳以上	16(100.)	14(87.5)	-(-)	2(12.5)	2(12.5)	-(-)	-(-)	2(12.5)	-(-)
無回答	2(100.)	1(50.0)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)

2. 2表 問22. つぎにあげる言葉から、あなたが連想される政党はどれでしょうか。ありましたら、その政党名をあげてください(複数でもかまいません)。

22-b. 革新

() 内は%

F2. 年齢	全 体	1. 自民党	2. 社会党	3. 新生党	4. 公明党	5. 日本新党	6. 新党さきがけ	7. 民社党	8. 共産党
全 体	295(100.)	6(2.0)	63(21.4)	90(30.5)	9(3.1)	65(22.0)	59(20.0)	2(0.7)	68(23.1)
1. 19歳以下	78(100.)	1(1.3)	16(20.5)	25(32.1)	2(2.6)	17(21.8)	17(21.8)	-(-)	14(17.9)
2. 20~21歳	61(100.)	1(1.6)	9(14.8)	20(32.8)	4(6.6)	13(21.3)	13(21.3)	1(1.6)	14(23.0)
3. 22~23歳	56(100.)	3(5.4)	17(30.4)	16(28.6)	-(-)	13(23.2)	11(19.6)	-(-)	10(17.9)
4. 24~25歳	31(100.)	1(3.2)	3(9.7)	11(35.5)	2(6.5)	12(38.7)	8(25.8)	-(-)	6(19.4)
5. 26~29歳	25(100.)	-(-)	8(32.0)	7(28.0)	-(-)	6(24.0)	4(16.0)	1(4.0)	7(28.0)
6. 30~39歳	26(100.)	-(-)	6(23.1)	9(34.6)	1(3.8)	3(11.5)	5(19.2)	-(-)	7(26.9)
7. 40歳以上	16(100.)	-(-)	4(25.0)	1(6.3)	-(-)	1(6.3)	1(6.3)	-(-)	10(62.5)
無回答	2(100.)	-(-)	-(-)	1(50.0)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)

とを考え合わせるならば、このステレオタイプ自体も崩壊しつつあるように思われる。

「革新」に目を転じると、かなり衝撃的な数値が並んでいる。「保守」と同様に、八割以上(八二%)が、「革新」という言葉から連想する政党をあげているが、注目すべきは、その政党名である。「革新」と聞いて自民党と回答するものはほとんどいないが、一番多く連想されているのは、新生党である。日本新党や新党さきがけも、共産党や社会党とほぼ同程度の比率で「革新」に位置づけられている。新生党・日本新党・新党さきがけの新しい政党グループと、社会党・共産党のいわゆる革新政党グループとにまとめて、それぞれを比較すると、前者の新しい政党を「革新」として連想しているのが延べ二・四人であるのに対し、後者のいわゆる革新政党の方は一・三一人にとどまっている。もはや、「革新」とは、政治的には

何の意味内容も有していないといえよう。さらに、年齢別の2・2表をみると、新生党が「革新政党」としてあげられる比率に象徴されるように、こうした傾向は、若者の中の未成年を中心とした最若年層に限定されることなく、成人層、さらには中高年層にまで広がりつつあることが窺われよう。

「自分を保守か革新のどちらかに位置づけたら…」と聞けば、おおかたが「自分は保守だ」とか「自分は革新だ」とか表明する。「保守」、あるいは、「革新」という言葉からそれぞれ連想する政党も、ほとんどの人が保有してはいない。しかしながら、ここまでのところ、それらの間に整合性のとれた何らかの脈絡が存在しているとはとうてい思われない。試みに、問17の回答と問22の回答とをクロスさせてみよう。2・3表は、「保守」と聞いて連想される政党名と、みずからの「保守」、「革新」への位置づけとの関連を、2・4表は、「革新」から連想される政党名と、自己の「保守」、「革新」への位置づけとの組み合わせを、それぞれ表示している。「保守政党」と「革新自己イメージ」とは、それなりに符合しており、「保守」であれ「革新」であれ、明確に自分自身を位置づけた人ほど、自民党を「保守政党」としてあげる比率が高い。そうはいつても、「革新のどちらでもない」人や、さらには「革新の意味がわからない」という人と比べて、際立っているわけではない。

「革新政党」と「革新自己イメージ」との関連をみると、「保守」・「革新」・「どちらでもない」の間の回答に、ほとんど目立った相違はない。みずからを「革新」と位置づける人たちにおいても、「革新政党」としては第一に新生党があげられ、これに日本新党と新党さきがけをくわえた新しい政党が連想される比率が、社会党と共産党とをはるかに凌駕しているのだ。先にも指摘したように、「革新自己イメージ」にかんして、自分自身を「革新にはいると思う」とした人が最も多く、四割近くを占めていた。しかし、このことは裏返すと、多数派は、新生党や日本新党、

2. 3表 問17. よく政治で保守とか革新とかいわれますが、あなたが自分をどちらかに位置づけるとしたら、保守でしょうか革新でしょうか。
()内は上段が横%、下段が縦%

問22. 連想される政党 (複数回答)		1.	2.	3.	4.	
a. 保守	全 体	保守には いると思う	革新には いると思う	どちらにも あてはまら ないと思う	保守・革新 の意味がよ くわからない	無回答
全 体	295(100.) (100.)	76(25.8) (100.)	110(37.3) (100.)	76(25.8) (100.)	32(10.8) (100.)	1(0.3) (100.)
1. 自民党	239(100.) (81.0)	65(27.2) (85.5)	93(38.9) (84.5)	59(24.7) (77.6)	22(9.2) (68.8)	-(-) (-)
2. 社会党	56(100.) (19.0)	11(19.6) (14.5)	25(44.6) (22.7)	16(28.6) (21.1)	4(7.1) (12.5)	-(-) (-)
3. 新生党	34(100.) (11.5)	10(29.4) (13.2)	13(38.2) (11.8)	6(17.6) (7.9)	5(14.7) (15.6)	-(-) (-)
4. 公明党	13(100.) (4.4)	1(7.7) (1.3)	7(53.8) (6.4)	2(15.4) (2.6)	3(23.1) (9.4)	-(-) (-)
5. 日本新党	11(100.) (3.7)	3(27.3) (3.9)	6(54.5) (5.5)	2(18.2) (2.6)	-(-) (-)	-(-) (-)
6. 新党さきがけ	17(100.) (5.8)	8(47.1) (10.5)	4(23.5) (3.6)	3(17.6) (3.9)	2(11.8) (6.3)	-(-) (-)
7. 民社党	18(100.) (6.1)	5(27.8) (6.6)	8(44.4) (7.3)	4(22.2) (5.3)	1(5.6) (3.1)	-(-) (-)
8. 共産党	15(100.) (5.1)	2(13.3) (2.6)	8(53.3) (7.3)	3(20.0) (3.9)	2(13.3) (6.3)	-(-) (-)
9. その他	4(100.) (1.4)	2(50.0) (2.6)	1(25.0) (0.9)	1(25.0) (1.3)	-(-) (-)	-(-) (-)
10. 無回答	22(100.) (7.5)	3(13.6) (3.9)	3(13.6) (2.7)	9(40.9) (11.8)	6(27.3) (18.8)	1(4.5) (100.)

法学志林 第九十三巻 第四号

2. 4表 よく政治で保守とか革新とかいわれますが、あなたが自分をどちらかに位置づけるとしたら、保守でしょうか革新でしょうか。
()内は上段が横%、下段が縦%

問22. 連想される政党 (複数回答)		1.	2.	3.	4.	
b. 革新	全 体	保守には いると思う	革新には いると思う	どちらにも あてはまら ないと思う	保守・革新 の意味がよ くわからない	無回答
全 体	295(100.) (100.)	76(25.8) (100.)	110(37.3) (100.)	76(25.8) (100.)	32(10.8) (100.)	1(0.3) (100.)
1. 自民党	6(100.) (2.0)	1(16.7) (1.3)	2(33.3) (1.8)	2(33.3) (2.6)	1(16.7) (3.1)	-(-) (-)
2. 社会党	63(100.) (21.4)	19(30.2) (25.0)	27(42.9) (24.5)	9(14.3) (11.8)	8(12.7) (25.0)	-(-) (-)
3. 新生党	90(100.) (30.5)	29(32.2) (38.2)	35(38.9) (31.8)	24(26.7) (31.6)	2(2.2) (6.3)	-(-) (-)
4. 公明党	9(100.) (3.1)	3(33.3) (3.9)	4(44.4) (3.6)	2(22.2) (2.6)	-(-) (-)	-(-) (-)
5. 日本新党	65(100.) (22.0)	17(26.2) (22.4)	23(35.4) (20.9)	18(27.7) (23.7)	7(10.8) (21.9)	-(-) (-)
6. 新党さきがけ	59(100.) (20.0)	10(16.9) (13.2)	20(33.9) (18.2)	24(40.7) (31.6)	5(8.5) (15.6)	-(-) (-)
7. 民社党	2(100.) (0.7)	-(-) (-)	1(50.0) (0.9)	1(50.0) (1.3)	-(-) (-)	-(-) (-)
8. 共産党	68(100.) (23.1)	25(36.8) (32.9)	22(32.4) (20.0)	14(20.6) (18.4)	7(10.3) (21.9)	-(-) (-)
9. その他	1(100.) (0.3)	1(100.) (1.3)	-(-) (-)	-(-) (-)	-(-) (-)	-(-) (-)
10. 無回答	52(100.) (17.6)	8(15.4) (10.5)	17(32.7) (15.6)	18(34.6) (23.7)	8(15.4) (25.0)	1(1.9) (100.)

そして新党さきがけを「革新政党」としてイメージするという脈絡の中で生じていることに留意しなければならない。すなわち、いわゆる「革新」が崩壊し、「保守」のイメージ、それも「保守」＝「自民党」というステレオタイプのみがイメージされる中で、その「保守」を基準として、言い換えるならば、そのカウンターとして表明される「自分は革新」にすぎないということである。

いずれにせよ、「保守と革新」の対立図式や、枠組みとしての「保守—革新」は、若者のイメージにおいて完全に消滅しつつあるといって差し支えないであろう。それでは、かれらが政党を認知したり識別したりするとき、そのやりどころとしている基準とはいったい何なのだろうか。かれらの政党志向性にかかわりを持つと思われるような要素を、いくつか取り上げて検討してみよう。それらの政治的意見や態度は、問20の回答にみられる政党の選択の、はたして弁別要素となりうるだろうか。われわれは、ここで、以下の三つの質問を取り上げてみた。

問8 いまの日本の政治を実際に動かしている人は、誰だと思えますか。一つだけ選んでください。

- (1) 国会議員 (2) 官僚 (政府の役人) (3) 首相 (総理大臣) (4) 国民一人一人
 (5) 大企業 (大きな会社) (6) マスコミ (新聞やテレビ) (7) その他 (8) わからない

問10 あなたの意見を政治の上で反映させるには、どうするのがもっともよいと思えますか。

- (1) 選挙で投票する (2) 国会議員に訴える (3) 総理大臣に手紙を書く (4) 新聞に投書する
 (5) 同じ意見の人とデモをする (6) 自分の支持する政党を応援する (7) 何をやってもむだだ
 (8) わからない

問18 あなたは、総選挙で投票するとき、どのような基準を重視して投票しますか。つきの中から一つだけ選んでください。

- (1) 候補者の所属政党 (2) 候補者のイメージ (3) 候補者の公約 (4) 候補者の実績
 (5) 時と場合による (6) わからない

まずは、2・5表を参照されたい。選択された度数の比較的多い自民党、新党さきがけ、新生党、日本新党、社会党、共産党の六党について比較すると、「いまの日本の政治を実際に動かしているのは誰か」という質問に対する回答のボタンには、ほとんど大きな相違がみられない。すなわち、いずれの政党についても、先ず第一に「官僚」が選ばれ、これが過半数を占めている。ついで、「国会議員」と「大企業」という順序は共通している。現実の政治や政治主体にかんする認識は、政党選択を弁別する要素とはなっていない。

つきに、2・6表で、「自分の意見を政治に反映させるにはどうするか」という質問に対する回答を、六政党について比較してみよう。ここでもやはり、共通したボタンがみうけられる。どの政党にかんしても、「何をやってもむだだ」がもっとも多いいこと、そして、回答がこの「何をやってもむだだ」と「選挙で投票する」とに、ほぼ二分されていることにほかならない。この二つのグループの分析については、本稿の「I」も参照されたい。いずれにせよ、自分が政治にどのようにかかわるのか、あるいは政治にそれなりの手応えを感じているかといった、政治参加や政治の有効性感覚は、政党の識別や選択の規定要因としては機能しないようである。

今度は、「総選挙で投票するとき重視する基準」についてまとめた2・7表に転じてみよう。個々の比率には多少

2. 5表 問8. いまの日本の政治を実際に動かしている人は、誰だと思えますか。一つだけ選んでください。

() 内は%

問20 選挙で選ぶ政党	全体	1. 国会議員	2. 官僚 (政府の役人)	3. 首相 (総理大臣)	4. 国民一人一人	5. 大企業 (大きな会社)	6. マスコミ (新聞やテレビ)	7. その他	8. わからない	無回答
全体	295(100.)	45(15.3)	154(52.2)	3(1.0)	5(1.7)	46(15.6)	20(6.8)	10(3.4)	11(3.7)	1(0.3)
1. 自民党	69(100.)	11(15.9)	36(52.2)	2(2.9)	3(4.3)	7(10.1)	5(7.2)	2(2.9)	3(4.3)	-(-)
2. 社会党	43(100.)	4(9.3)	26(60.4)	-(-)	-(-)	4(9.3)	7(16.3)	1(2.3)	1(2.3)	-(-)
3. 新生党	61(100.)	12(19.7)	30(49.2)	-(-)	3(4.9)	6(9.8)	3(4.9)	3(4.9)	4(6.6)	-(-)
4. 公明党	8(100.)	2(25.0)	1(12.5)	-(-)	1(12.5)	3(37.5)	1(12.5)	-(-)	-(-)	-(-)
5. 日本新党	45(100.)	6(13.3)	23(51.1)	-(-)	1(2.2)	8(17.8)	3(6.7)	3(6.7)	-(-)	1(2.2)
6. 新党さきがけ	66(100.)	15(22.7)	34(51.5)	-(-)	1(1.5)	9(13.6)	3(4.5)	3(4.5)	1(1.5)	-(-)
7. 民社党	8(100.)	1(12.5)	3(37.5)	-(-)	-(-)	3(37.5)	1(12.5)	-(-)	-(-)	-(-)
8. 共産党	34(100.)	3(8.8)	18(52.9)	-(-)	-(-)	8(23.5)	2(5.9)	1(2.9)	2(5.9)	-(-)
9. なし	24(100.)	5(20.8)	11(45.8)	1(4.2)	-(-)	3(12.5)	1(4.2)	1(4.2)	2(8.3)	-(-)

2. 6表 問10. あなたの意見を政治の上に反映させるには、どうするのがもっともよいと思えますか。

() 内は%

問20 選挙で選ぶ政党	全体	1. 選挙で投票する	2. 国会議員に訴える	3. 総理大臣に手紙を書く	4. 新聞に投書する	5. 同じ意見の人とデモをする	6. 自分の支持する政党を応援する	7. 何をやるかわからない	8. わからない	無回答
全体	295(100.)	60(20.3)	15(5.1)	13(4.4)	39(13.2)	21(7.1)	27(9.2)	99(33.6)	19(6.4)	2(0.7)
1. 自民党	69(100.)	16(23.2)	4(5.8)	3(4.3)	8(11.6)	3(4.3)	3(4.3)	28(40.6)	4(5.8)	-(-)
2. 社会党	43(100.)	11(25.6)	-(-)	1(2.3)	6(14.0)	2(4.7)	6(14.0)	14(32.6)	3(7.0)	-(-)
3. 新生党	61(100.)	11(18.0)	5(8.2)	5(8.2)	9(14.8)	2(3.3)	6(9.8)	17(27.9)	6(9.8)	-(-)
4. 公明党	8(100.)	1(12.5)	-(-)	1(12.5)	-(-)	1(12.5)	-(-)	2(25.0)	1(12.5)	-(-)
5. 日本新党	45(100.)	11(24.4)	3(6.7)	2(4.4)	7(15.6)	3(6.7)	4(8.9)	13(28.9)	1(2.2)	1(2.2)
6. 新党さきがけ	66(100.)	14(21.2)	6(9.1)	3(4.5)	7(10.6)	6(9.1)	8(12.1)	19(28.8)	2(3.0)	1(1.5)
7. 民社党	8(100.)	1(12.5)	-(-)	1(12.5)	1(12.5)	1(12.5)	-(-)	4(50.0)	-(-)	-(-)
8. 共産党	34(100.)	3(8.8)	1(2.9)	-(-)	6(17.6)	3(8.8)	6(17.6)	10(29.4)	5(14.7)	-(-)
9. なし	24(100.)	5(20.8)	1(4.2)	-(-)	4(16.7)	2(8.3)	2(8.3)	8(33.3)	2(8.3)	-(-)

2. 7表 問18. あなたは、総選挙で投票するとき、どのような基準を重視して投票しますか。つぎの中から一つだけ選んでください。

() 内は%

問20. 選挙で選ぶ政党	全体	1. 候補者の所属政党	2. 候補者のイメージ	3. 候補者の公約	4. 候補者の実績	5. 時と場合による	6. わからない	無回答
全体	295(100.)	69(23.4)	35(11.9)	47(15.9)	39(13.2)	93(31.5)	11(3.7)	1(0.3)
1. 自民党	69(100.)	19(27.5)	10(14.5)	12(17.4)	9(13.0)	18(26.1)	1(1.4)	-(-)
2. 社会党	43(100.)	8(18.6)	6(14.0)	8(18.6)	6(14.0)	13(30.2)	2(4.7)	-(-)
3. 新生党	61(100.)	17(27.9)	8(13.1)	6(9.8)	8(13.1)	19(31.1)	3(4.9)	-(-)
4. 公明党	8(100.)	2(25.0)	-(-)	1(12.5)	1(12.5)	3(37.5)	1(12.5)	-(-)
5. 日本新党	45(100.)	13(28.9)	6(13.3)	6(13.3)	6(13.3)	12(26.7)	2(4.4)	-(-)
6. 新党さきがけ	66(100.)	11(16.7)	6(9.1)	14(21.2)	8(12.1)	26(39.4)	1(1.5)	-(-)
7. 民社党	8(100.)	3(37.5)	2(25.0)	-(-)	1(12.5)	2(25.0)	-(-)	-(-)
8. 共産党	34(100.)	10(29.4)	4(11.8)	6(17.6)	2(5.9)	10(29.4)	2(5.9)	-(-)
9. なし	24(100.)	2(8.3)	2(8.3)	-(-)	6(25.0)	11(45.8)	2(8.3)	1(4.2)

の相違がみられるものの、回答のパタン、つまり選択の順序はほぼ共通しており、政党間での違いはほとんど存在しない。ここで、先に検討した中選挙区単記制の特性を思い浮かべると、この結果は興味深い。すなわち、同一の選挙区に複数の候補者を擁立する自民党と、党と候補者とが一对一对応するその他の政党との間に相違がみうけられないからだ。また、政党としての凝集度が比較的高いといわれている共産党や公明党が、他の政党とほとんど変わりがないことも注目されよう。⁽¹⁹⁾ それとも、この結果は単に、かれらは選挙の制度に社会化されていないということを示しているだけなのだろうか。

因みに、個々の度数が少なすぎて正確な比較にはならないものの、「好きな政党」を聞いた問19であげられた政党名を対象として、ここで取り上げた問8、問10、問18の回答結果とクロスさせた場合も、やはり、「好きな政党」間に顕著な相違は存在しない。こうしてみると、かれら若者が示した政党の選択は、政治的な意見や態度とはかわることのない、いわば何の脈絡もないその場限りの気まぐれ程度のものではないのかと、いったん疑ってみる必要があるのかもしれない。

二、政党識別パタンと「嫌いな政党」

先に、政党に対する「好意度」を指標化する方法として「感情温度計」質問を紹介したが、政党の認知枠組みにおいては、もうひとつ、「印象度」という指標を設定することができるのではないだろうか。「印象度」は、おそらく、好意と嫌悪の双方向性を有するであろう。そこで、われわれは、若者における政党への志向性の一端を検出する方法として、負の選択の側面に注目し、「嫌いな政党」を尋ねてみた。

もともと、日本人の政治意識にかんしては、三宅一郎ら先達によって、政党支持の「幅」という概念が提示されており、そこでは「嫌いな政党」＝「拒否政党」が、政党選択における重要な役割を果たしている指摘されてきた。すなわち、政党支持の「幅」とは、択一選択質問の回答にみられる特定の「支持政党」を中核とし、「この政党だけは」支持したくない」とか「投票したくない」といった「拒否政党」を除いた「消極的な支持政党」をその周辺として構成されているというのである。¹³⁾

それでは、われわれの調査結果はどうなっているだろうか。

問21 今度は逆に、嫌いな政党はありますか。ありましたら、その政党名をお答えください（複数でもかまいません）。また、なければ、「なし」とお書きください。

「好きな政党」と比べて、表明された「嫌いな政党」の数は格段に多い。また、人数で見ても、「嫌いな政党」は「なし」と答えたのは、一七%の五人にすぎず、「好きな政党」は「なし」の二〇四人（六九%）と対照的である。元来、「拒否政党」というのは、いってみれば政治文化的な指標のようなもので、特定の政党、つまり、共産党と公明党とに集中してきた。しかしながら、この結果をみると、各政党がそれぞれ満遍なくあげられており、共産、公明両党は比率は多いものの際立ってはいない。とりあえずは、「拒否政党」にかんする、これまでの常識とは異なった認知の脈絡が類推されよう。

また、「選挙で選ぶ政党」と比較した場合、複数回答としてあげられた「嫌いな政党」の数の多さに、あらためて気付く。すなわち、「選挙で選ぶ政党」については、「選挙で」という条件設定の影響を考慮に入れなければならぬのはもちろんだが、延べにして三三四（単独＝二〇〇、複数＝一三四）の政党名が表明されている。一方、「嫌いな

政党」にかんしては、延べ数四五二(単独Ⅱ一五、複數Ⅱ三三七)の政党名があげられている。人数を基準にする
と、「選挙で選ぶ政党」名を回答した二七一人中、二個以上の政党をあげたものが五九人であるのに対し、「嫌いな政
党」名を回答した二四四人中、複数の政党名をあげたのは半数を超える一二四人にのぼっている。

若者の政党の選択は、負の選択に起因しているのだろうか。そのことを確認する何らかの傾向を、われわれの調査
結果から、はたして読み取ることが出来るだろうか。まず、「選挙で選ぶ政党」についておこなつたと同様に、政治
的意見や態度の質問との関連を検討してみよう。ここでは、負の選択ということも考慮して、問8、問10、問18の他
に、あらたに問9を加えた。

第一に、問8の「いまの政治を実際に動かしているのは誰か」については、2・8表を参照されたい。「国会議員」
の回答比率に多少のばらつきがみうけられるものの、「嫌いな政党」として選択された各々の政党ごとの回答構造に、
大きな相違は存在しない。いずれの場合も、「官僚」の比率がきわめて高く、ついで「大企業」、「国会議員」という
順序と、他の「マスコミ」、「国民一人一人」、「首相」はほとんど選択されていないという回答パターンに変わりはない。
第二に、問10の「自分の意見を政治に反映させるにはどうするか」という質問にかんしてまとめた2・9表をみる
と、どの政党についても、「何をやってもむだだ」がもっとも多く、比率自体にもほとんど差のないことがわかる。
他の選択肢も、ほぼ似通つた比率となっている。政治への参加態度や政治的な有効性感覚も、「嫌いな政党」を弁別
する要素とはなっていない。

三番目に、2・10表で、「総選挙で投票するときの基準」についてみてみよう。ここでもやはり、政党間での違い
はほとんど読み取れない。

2. 8表 問8. いまの日本の政治を実際に動かしている人は、誰だと思いますか。一つだけ選んでください。

() 内は%

問21 嫌いな政党	全 体	1. 国会議員	2. 官僚 (総政府の役人)	3. 首相 (総理大臣)	4. 国民一人一人	5. 大企業 (大さな会社)	6. マスコミ (新聞やテレビ)	7. その他	8. わからない	無回答
全 体	295(100.)	45(15.3)	154(52.2)	3(1.0)	5(1.7)	46(15.6)	20(6.8)	10(3.4)	11(3.7)	1(0.3)
1. 自民党	90(100.)	8(8.9)	45(50.0)	-(-)	-(-)	19(21.1)	8(8.9)	7(7.8)	3(3.3)	-(-)
2. 社会党	64(100.)	7(10.9)	32(50.0)	1(1.6)	1(1.6)	15(23.4)	3(4.7)	3(4.7)	1(1.6)	1(1.6)
3. 新生党	54(100.)	3(5.6)	33(61.1)	-(-)	1(1.9)	10(18.5)	4(7.4)	2(3.7)	1(1.9)	-(-)
4. 公明党	85(100.)	4(4.7)	46(54.1)	1(1.2)	1(1.2)	16(18.8)	6(7.1)	6(7.1)	4(4.7)	1(1.2)
5. 日本新党	30(100.)	6(20.0)	17(56.7)	-(-)	1(3.3)	4(13.3)	-(-)	2(6.7)	-(-)	-(-)
6. 新党さきがけ	21(100.)	1(4.8)	9(42.9)	-(-)	1(4.8)	6(28.6)	2(9.5)	1(4.8)	-(-)	1(4.8)
7. 民社党	22(100.)	1(4.5)	10(45.5)	-(-)	-(-)	4(18.2)	2(9.1)	4(18.2)	1(4.5)	-(-)
8. 共産党	86(100.)	13(15.1)	46(53.5)	1(1.2)	1(1.2)	13(15.1)	6(7.0)	4(4.7)	1(1.2)	1(1.2)
9. なし	51(100.)	13(25.5)	21(41.2)	1(2.0)	2(3.9)	6(11.8)	1(2.0)	1(2.0)	6(11.8)	-(-)

2. 9表 問10. あなたの意見を政治の上に反映させるには、どうするのがもっともよいと思いますか。

() 内は%

問21 嫌いな政党	全 体	1. 選挙で投票する	2. 国会議員に訴える	3. 総理大臣に手紙を書く	4. 新聞に投稿する	5. 同じ意見の人とデモをする	6. 自分の支持する政党を応援する	7. 文をやったむだだ	8. わからない	無回答
全 体	295(100.)	60(20.3)	15(5.1)	13(4.4)	39(13.2)	21(7.1)	27(9.2)	99(33.6)	19(6.4)	2(0.7)
1. 自民党	90(100.)	18(20.0)	5(5.6)	4(4.4)	8(8.9)	7(7.8)	10(11.1)	32(35.6)	5(5.6)	1(1.1)
2. 社会党	64(100.)	9(14.1)	6(9.4)	5(7.8)	10(15.6)	6(9.4)	4(6.3)	22(34.4)	2(3.1)	-(-)
3. 新生党	54(100.)	16(29.6)	2(3.7)	2(3.7)	4(7.4)	4(7.4)	6(11.1)	16(29.6)	4(7.4)	-(-)
4. 公明党	85(100.)	18(21.2)	4(4.7)	2(2.4)	12(14.1)	9(10.6)	13(15.3)	23(27.1)	3(3.5)	1(1.2)
5. 日本新党	30(100.)	5(16.7)	3(10.0)	1(3.3)	4(13.3)	2(6.7)	10(33.3)	4(13.3)	-(-)	-(-)
6. 新党さきがけ	21(100.)	4(19.0)	-(-)	1(4.8)	2(9.5)	1(4.8)	4(19.0)	7(33.3)	2(9.5)	-(-)
7. 民社党	22(100.)	1(4.5)	2(9.1)	-(-)	1(4.5)	2(9.1)	6(27.3)	8(36.4)	2(9.1)	-(-)
8. 共産党	86(100.)	15(17.4)	8(9.3)	3(3.5)	11(12.8)	5(5.8)	10(11.6)	29(33.7)	3(3.5)	2(2.3)
9. なし	51(100.)	8(15.7)	-(-)	3(5.9)	6(11.8)	4(7.8)	3(5.9)	18(35.3)	9(17.6)	-(-)

2. 10表 問18. あなたは、総選挙で投票するとき、どのような基準を重視して投票しますか。つぎの中から一つだけ選んでください。

() 内は%

問21 嫌いな政党	全 体	1. 候補者の所属政党	2. 候補者のイメージ	3. 候補者の公約	4. 候補者の実績	5. 時と場合による	6. わからない	無回答
全 体	295(100.)	69(23.4)	35(11.9)	47(15.9)	39(13.2)	93(31.5)	11(3.7)	1(0.3)
1. 自民党	90(100.)	25(27.8)	9(10.0)	13(14.4)	16(17.8)	23(25.6)	3(3.3)	1(1.1)
2. 社会党	64(100.)	17(26.6)	9(14.1)	11(17.2)	10(15.6)	15(23.4)	2(3.1)	-(-)
3. 新生党	54(100.)	12(22.2)	5(9.3)	12(22.2)	6(11.1)	17(31.5)	2(3.7)	-(-)
4. 公明党	85(100.)	22(25.9)	7(8.2)	15(17.6)	9(10.6)	32(37.6)	-(-)	-(-)
5. 日本新党	30(100.)	8(26.7)	2(6.7)	6(20.0)	3(10.0)	8(26.7)	3(10.0)	-(-)
6. 新党さきがけ	21(100.)	8(38.1)	2(9.5)	1(4.8)	1(4.8)	8(38.1)	1(4.8)	-(-)
7. 民社党	22(100.)	5(22.7)	3(13.6)	3(13.6)	1(4.5)	10(45.5)	-(-)	-(-)
8. 共産党	86(100.)	25(29.1)	11(12.8)	12(14.0)	8(9.3)	29(33.7)	1(1.2)	-(-)
9. なし	51(100.)	6(11.8)	6(11.8)	7(13.7)	10(19.6)	18(35.3)	4(7.8)	-(-)

政治的社会化における連続と不連続 (二) (岡村・松本)

次いで、あらたに加えた問9についてはどうだろうか。

問9 国会議員は誰のために働いていると思えますか。一つだけ選んでください。

- | | | | |
|-----------|--------------|-----------------|-------------|
| (1) 自分のため | (2) 自分の政党のため | (3) 自分を選んだ地方のため | (4) 日本全体のため |
| (5) 世界のため | (6) その他 | (7) わからない | |

「国会議員は誰のために働いているか」との質問に対しては、対象者全体でみた場合、六割をこえる一八五人が、「自分のため」という否定的な回答をしているが、2・11表によれば、政党別にみても「自分のため」は圧倒的に多く、いずれにかんしても七割近くないしはそれ以上の比率となっている。これは〔I〕でみたように、未成年期の政治的社会化の延長線上にある。どの政治家、どの政党も、同一のイメージで括られているのだろうか。

延べにして四五二にもおよぶ「嫌いな政党」が表明されているにもかかわらず、それらの選択は、「選挙で選ぶ政党」の選択と同様に、それほど意味をもっていないようにも思われる。

若者における政党への志向性を、政治的な意見や態度を切り口として解釈する方法はひとまず留保し、かれらによる二つの選択、つまり、正の選択と負の選択との関連に目をむけてみよう。「選挙で選ぶ政党」と「嫌いな政党」とは、どのような筋道を通じて識別されるのだろうか。まずは、認知の優先順が問題となろう。正と負の選択間では、どちらが起点となっているのだろうか。「選挙で選ぶ政党」が先行するか、あるいは「嫌いな政党」が先行するののか。

2・12表は、「選挙で選ぶ政党」を基準とした場合の、「選挙で選ぶ政党」と「嫌いな政党」の組み合わせをまとめたものである。2・13表は、反対に、「嫌いな政党」を基準としたときの、「選挙で選ぶ政党」と「嫌いな政党」の組み合わせを示している。複数回答であることによる集計の煩雑さをさけるために、二つの政党の組み合わせで表示し

2. 11 表 問9. 国会議員は誰のために働いていると思いますか。一つだけ選んでください。()内は%

問21 嫌いな政党	全 体	1. 自分のため	2. 自分の政党のため	3. 自分を選んだ地方のため	4. 日本全体のため	5. 世界のため	6. その他	7. わからない	無回答
全 体	295(100.)	185(62.7)	54(18.3)	24(8.1)	15(5.1)	—(—)	10(3.4)	7(2.4)	—(—)
1. 自民党	90(100.)	62(68.9)	18(20.0)	3(3.3)	1(1.1)	—(—)	4(4.4)	2(2.2)	—(—)
2. 社会党	64(100.)	42(65.6)	15(23.4)	3(4.7)	2(3.1)	—(—)	2(3.1)	—(—)	—(—)
3. 新生党	54(100.)	37(68.5)	5(9.3)	8(14.8)	3(5.6)	—(—)	1(1.9)	—(—)	—(—)
4. 公明党	85(100.)	55(64.7)	12(14.1)	9(10.6)	4(4.7)	—(—)	3(3.5)	2(2.4)	—(—)
5. 日本新党	30(100.)	22(73.3)	5(16.7)	1(3.3)	—(—)	—(—)	2(6.7)	—(—)	—(—)
6. 新党さきがけ	21(100.)	17(81.0)	3(14.3)	1(4.8)	—(—)	—(—)	—(—)	—(—)	—(—)
7. 民社党	22(100.)	15(68.2)	3(13.6)	2(9.1)	1(4.5)	—(—)	—(—)	1(4.5)	—(—)
8. 共産党	86(100.)	56(65.1)	17(19.8)	7(8.1)	5(5.8)	—(—)	—(—)	1(1.2)	—(—)
9. なし	51(100.)	28(54.9)	11(21.6)	4(7.8)	3(5.9)	—(—)	2(3.9)	3(5.9)	—(—)

政治的社会化における連続と不連続 (二) (岡村・松本)

2. 12 表 「選挙で選ぶ政党」と「嫌いな政党」の組み合わせ

(問20) 選挙で選ぶ政党	(問21) 嫌いな政党	度数	(問20) 選挙で選ぶ政党	(問21) 嫌いな政党	度数
自 民	共 産	②	日 新	自 民	⑤
・公 明	③	・共 産	・共 産	④	
・(なし)	④	・社 会	・社 会	⑦	
・社 会	⑤	・公 明	・公 明	⑥	
・新 生	⑥	・さきがけ	・さきがけ	⑦	
・日 新	⑦	・新 生	・新 生	⑧	
・民 社	⑧	・(なし)	・(なし)	③	
・さきがけ	④	・民 社	・民 社	①	
社 会	自 民	④	さきがけ	公 明	②
・公 明	⑤	・新 生	・新 生	③	
・新 生	⑥	・共 産	・共 産	④	
・日 新	⑦	・自 民	・自 民	⑤	
・共 産	⑧	・日 新	・日 新	⑥	
・(なし)	⑤	・民 社	・民 社	⑦	
・民 社	④	・社 会	・社 会	⑧	
・さきがけ	③	・(なし)	・(なし)	⑦	
新 生	共 産	⑤	共 産	公 明	⑦
・社 会	⑥	・自 民	・自 民	⑧	
・自 民	⑦	・新 生	・新 生	①	
・公 明	⑧	・社 会	・社 会	②	
・(なし)	⑤	・日 新	・日 新	③	
・さきがけ	④	・民 社	・民 社	④	
・民 社	③	・さきがけ	・さきがけ	⑤	
・日 新	②	・(なし)	・(なし)	③	
公 明	自 民	④	公 明	自 民	⑦
・社 会	④	・社 会	・社 会	⑧	
・共 産	⑤	・共 産	・共 産	①	
・さきがけ	⑥	・さきがけ	・さきがけ	②	
・(なし)	①	・(なし)	・(なし)	③	

2. 13表「嫌いな政党」と「選挙で選ぶ政党」の組み合わせ

(問 21) 嫌いな 政党		(問 20) 選挙で 選ぶ政党		(度数)	(問 21) 嫌いな 政党		(問 20) 選挙で 選ぶ政党		(度数)
自	民	・社 ・新 ・さ ・共 ・(な ・公 ・民	新	⑤	日	新	さ	⑫	
			会	④			さ	⑩	
			生	③			社	⑧	
			産	②			・共	⑦	
			民	①			・自	⑥	
			生	⑦			・新	⑤	
			産	⑥			さ	さ	④
			民	⑤					
			社	④					
			公	③					
社	会	・新 ・日 ・自 ・共 ・さ ・民 ・(な ・公	生	②	共	産	新	⑤	
			民	①			日	④	
			生	⑦			・自	④	
			産	⑥			・共	③	
			民	⑤			・民	②	
			社	④			新	さ	③
			産	③					
			民	②					
			社	①					
			新	生			・さ ・社 ・共 ・自 ・日	さ	③
会	②	日			①				
産	①	・さ			①				
民	⑦	・社			①				
生	⑥	・民			①				
産	⑤	公			明	④			
民	④								
社	③								
公	②								
公	明	・さ ・自 ・社 ・共 ・新 ・日 ・(な ・民			さ	②		公	明
			会	①	日	①			
			産	⑦	・(な	①			
			民	⑥	・民	①			
			生	⑤	新	さ	①		
			産	④					
			民	③					
			社	②					

ているので、度数については重複して集計されている。まず、2・12表では、一見すると似通ったパターンが窺われる。けれども、「選挙で選ぶ政党」ごとに、「嫌いな政党」を度数の高い第三位までに限定して比較すると、順序の共通するパターンは存在しないことが判明する。この表にみられる傾向は、むしろ、「嫌いな政党」のグロス集計において、自民、公明、共産の三党が相対的に多数を占めていたことを、われわれに再確認させるところとどまらる。

「嫌いな政党」を基準とした2・13表をみると、今度は、明確な共通パターンの存在に気がつく。すなわち、社会党と新党さきがけとの間の、さらには、新生党と日本新党との間の、「選挙で選ぶ政党」の選択パターンは一致している。しかも、「社会党・新党さきがけ」

パタンと「新生党・日本新党」パタンとが、まったく裏表の対極的な関係になっている。そして、共産党が「社会党・新党さきがけ」パタンに近く、これに対して公明党は「新生党・日本新党」パタンに類似している。自民党は、両パタンの中間に位置していると捉えることができよう。ここにみられる、いわば三極的な政党志向は、村山政権の成立後二、三ヶ月という調査が実施された当時の政治状況と、ある程度符合しているといえよう。ただし、こうした解釈は、「嫌いな政党」を基準としてみた場合に成立することに、留意しなければならない。そうすることによって、また、「好きな政党」をあげるものが三一%の九一人のみであるのに対し、「選挙で選ぶ政党」をあげるものは九二%の二七一人にのぼること、裏返せば、「好きな政党」の「ない」ものが六九%（二〇四人）であるのに対して「選挙で選ぶ政党」の「ない」ものは八%（二四人）にすぎないこととの間の、関係性の筋道が、多少とも明らかになってくるのではないだろうか。

このような推定が、それなりの妥当性をもつとすれば、「嫌いな政党」を筋道として選択されるところの、選挙で選ぶという意味での「支持政党」ないし「投票政党」とは、どのようにイメージされているのか。あるいはまた、「嫌いな政党」と「選挙で選ぶ政党」とが対（ペア）となつて識別されるためには、どのような認知スクリーンが介在しているのだろうか。

三、政党イメージと「リアリズム—アンチ・リアリズム」枠組

ここまでのところ、われわれは、若者の間での「嫌いな政党」を基準とする政党識別パタンの存在とその構成を、確認することができた。識別パタンの形成に寄与すると思われるような政党イメージや政党の認知枠組の検出のため

に、われわれは、再度、「選挙で選ぶ政党」および「嫌いな政党」と、他の質問に対する回答との関連を検討していった。クロス表の作成を続けるうちに、政党選択の方向性をかなりの程度弁別しうる質問を見出すことができた。それは、問16のa、d中の、bとcの二つの項目にはかならない。

問16 ここに国の政治について次のような意見があります。それぞれの意見について、あなたはそう思いますか、そうは思いませんか。

16—a 「選挙で投票することが、国の政治に私たちの意見を反映させる唯一の方法である」

(1) そう思う (2) そうは思わない (3) わからない

16—b 「政治にはある程度秘密がつきもので、すべてをガラス張りにすることはむづかしい」

(1) そう思う (2) そうは思わない (3) わからない

16—c 「政治家には高潔な人格よりも実行力が必要とされる」

(1) そう思う (2) そうは思わない (3) わからない

16—d 「一般に政治というとき、それは市区町村とはあまり関係がなく、主に国に関係したことである」

(1) そう思う (2) そうは思わない (3) わからない

四つの質問に対する回答を「選挙で選ぶ政党」ごとに集計したのが2・14、2・17表、同じく「嫌いな政党」ごとに集計したのが2・18、2・21表である。¹⁴⁾まず、aの質問についてみてみよう。2・14表と2・18表とを参照されたい。「選挙で投票することが自分たちの意見を政治に反映させる唯一の方法だとは思わない」という意見は、「選挙で選ぶ政党」についても、「嫌いな政党」についても、選択された政党を超越する支配的な態度となっている。先に問

2. 14表 問16-a 「選挙で投票することが、国の政治に私たちの意見を反映させる唯一の方法である」()内は%

		()内は%	
		1. そう思う	2. そうは思わない
1. 自民党	69	13 (18.8)	50 (72.4)
2. 社会党	43	11 (25.6)	31 (72.1)
3. 新生党	61	13 (21.3)	44 (72.1)
4. 公明党	8	3 (37.5)	4 (50.0)
5. 日本新党	45	7 (15.6)	38 (84.4)
6. 新党さきがけ	66	14 (21.2)	51 (77.3)
7. 民社党	8	3 (37.5)	5 (62.5)
8. 共産党	34	5 (14.7)	25 (73.5)
9. なし	24	3 (12.5)	19 (79.2)
問20 選挙で選ぶ政党			

2. 15表 問16-b 「政治にはある程度秘密が付きもので、すべてをガラス張りにすることはむづかしい」

		()内は%	
		1. そう思う	2. そうは思わない
1. 自民党	69	42 (60.9)	23 (33.3)
2. 社会党	43	14 (32.6)	25 (58.1)
3. 新生党	61	38 (62.3)	18 (29.5)
4. 公明党	8	5 (62.5)	3 (37.5)
5. 日本新党	45	27 (60.0)	15 (33.3)
6. 新党さきがけ	66	29 (43.9)	32 (48.4)
7. 民社党	8	8 (100.0)	0 (—)
8. 共産党	34	13 (38.2)	19 (55.9)
9. なし	24	15 (62.5)	7 (29.2)
問20 選挙で選ぶ政党			

2. 16表 問16-c 「政治家には高潔な人格よりも実行力が必要とされる」()内は%

		()内は%	
		1. そう思う	2. そうは思わない
1. 自民党	69	40 (58.0)	14 (20.3)
2. 社会党	43	19 (44.2)	19 (44.2)
3. 新生党	61	48 (78.7)	9 (14.8)
4. 公明党	8	4 (50.0)	3 (37.5)
5. 日本新党	45	27 (60.0)	12 (26.7)
6. 新党さきがけ	66	33 (50.0)	23 (34.8)
7. 民社党	8	5 (62.5)	1 (12.5)
8. 共産党	34	12 (35.3)	15 (44.1)
9. なし	24	11 (45.8)	10 (41.7)
問20 選挙で選ぶ政党			

2. 17表 問16-d 「一般に政治というとき、それは市区町村とはあまり関係がなく、主に国に関係したことである」

		()内は%	
		1. そう思う	2. そうは思わない
1. 自民党	69	29 (42.0)	36 (52.2)
2. 社会党	43	24 (55.8)	19 (44.2)
3. 新生党	61	38 (62.3)	22 (36.1)
4. 公明党	8	4 (50.0)	3 (37.5)
5. 日本新党	45	21 (46.7)	23 (51.1)
6. 新党さきがけ	66	30 (45.4)	35 (53.0)
7. 民社党	8	5 (62.5)	3 (37.5)
8. 共産党	34	20 (58.8)	12 (35.3)
9. なし	24	12 (50.0)	9 (37.5)
問20 選挙で選ぶ政党			

2. 18表 問16-a 「選挙で投票することが、国の政治に私たちの意見を反映させる唯一の方法である」()内は%

	1. そう思う	2. そうは思わない
1. 自民党	90 16 (17.8)	70 (77.8)
2. 社会党	64 11 (17.2)	51 (80.0)
3. 新生党	54 11 (20.4)	39 (72.2)
4. 公明党	85 14 (16.4)	67 (78.8)
5. 日本新党	30 5 (16.7)	23 (76.7)
6. 新党さきがけ	21 5 (23.8)	15 (71.4)
7. 民社党	22 3 (13.6)	17 (77.3)
8. 共産党	86 15 (17.4)	70 (81.4)
9. なし	51 6 (11.8)	38 (74.5)
問21 嫌いな政党		

2. 19表 問16-b 「政治にはある程度秘密がつきもので、すべてをガラス張りにはすることはむづかしい」

()内は%

	1. そう思う	2. そうは思わない
1. 自民党	90 40 (44.4)	40 (44.4)
2. 社会党	64 43 (67.2)	18 (28.2)
3. 新生党	54 20 (37.0)	31 (57.4)
4. 公明党	85 41 (48.2)	37 (43.5)
5. 日本新党	30 10 (33.3)	18 (60.0)
6. 新党さきがけ	21 13 (61.9)	8 (38.1)
7. 民社党	22 10 (45.4)	12 (54.5)
8. 共産党	86 55 (64.0)	26 (30.2)
9. なし	51 31 (60.8)	13 (25.4)
問21 嫌いな政党		

2. 20表 問16-c 「政治家には高深な人格よりも実行力が必要とされる」()内は%

	1. そう思う	2. そうは思わない
1. 自民党	90 45 (50.0)	31 (34.4)
2. 社会党	64 41 (64.1)	16 (25.0)
3. 新生党	54 24 (44.4)	22 (40.7)
4. 公明党	85 41 (48.2)	28 (32.9)
5. 日本新党	30 16 (53.3)	8 (26.7)
6. 新党さきがけ	21 15 (71.4)	3 (14.3)
7. 民社党	22 10 (45.4)	6 (27.3)
8. 共産党	86 55 (64.0)	16 (18.6)
9. なし	51 23 (45.1)	17 (33.3)
問21 嫌いな政党		

2. 21表 問16-d 「一般に政治というとき、それは市区町村とはあまり関係がなく、主に国に関係したことである」

()内は%

	1. そう思う	2. そうは思わない
1. 自民党	90 49 (54.4)	39 (43.3)
2. 社会党	64 42 (65.6)	20 (31.3)
3. 新生党	54 21 (38.9)	32 (59.3)
4. 公明党	85 43 (50.6)	40 (47.1)
5. 日本新党	30 18 (60.0)	11 (36.7)
6. 新党さきがけ	21 9 (42.9)	12 (57.1)
7. 民社党	22 13 (59.1)	7 (31.8)
8. 共産党	86 46 (53.4)	35 (40.7)
9. なし	51 23 (45.1)	26 (51.0)
問21 嫌いな政党		

10 「自分の意見を政治に反映させるにはどうするか」でみられた傾向が、思い出されよう。いずれにせよ、この態度は、政党の選択を弁別する要素とはなり得ない。

つぎに、2・17表と2・21表で、dの質問についてみると、「政治とは国レベルのことだ」ということについて「そう思う」か「そうは思わない」かをめぐって、政党間での相違がみうけられる。ただ、「嫌いな政党」と「選挙で選ぶ政党」との組み合わせに注意し、「そう思う」と「そうは思わない」との間の比率の大小関係に依じて各政党をグループニングすると、2・17表における政党間配置(社会・新生・共産グループ、自民・日本新・さきがけグループ)と2・21表における政党間配置(自民・社会・日本新・民社・共産グループ、新生・さきがけグループ、公明)とが、一致しないことが判明する。つまり、「嫌いな政党」と「選挙で選ぶ政党」との間に整合性がみられず、したがって、先に確認した正の選択と負の選択のペア・パターンと矛盾しよう。

これに対し、bやcにかんしては、一致したパターンがみうけられる。bについて、2・15表と2・19表とを見比べてみよう。「選挙で選ぶ政党」と「嫌いな政党」のどちらを基準にしても同じことがいえるが、「嫌いな政党」からみると、社会党、新党さきがけ、共産党の三党を「嫌いな政党」としてあげた人たちは、共通して、「政治をガラス張りにすることはむずかしい」を「そう思う」と肯定する比率が高い。

一方、新生党や日本新党、そして自民党を「選挙で選ぶ政党」にあげた人たちもやはり、「そう思う」とする比率は共通して高くなっている。「嫌いな政党」にかんする社会・新党さきがけ・共産各党と「選挙で選ぶ政党」にかんする新生・日本新・自民各党との組み合わせ、この傾向は、先に2・13表でみたパターンと符合する。

対極的に、新生党、日本新党を「嫌いな政党」として表明した人たちは、「政治をガラス張りにはむずか

しい」を「そうは思わない」と否定する態度の比率が比較的高い。そして、社会党、新党さきがけ、共産党を「選挙で選ぶ政党」にあげた人たちも、同じく「そうは思わない」とする比率が相対的に高い点で共通している。これまた、2・13表で確認されたもう一方の組み合わせとまさに対応している。

今度は、cの質問にかんして、2・16表と2・20表で確認してみよう。「嫌いな政党」として社会党、新党さきがけ、共産党をあげた人たちに共通するのは、「政治家には人格よりも実行力が必要だ」を肯定する比率の高いことである。他方、「選挙で選ぶ政党」に新生党、日本新党、自民党を選択した人も、同様に「そう思う」と肯定する比率が高い。逆からみれば、社会党、新党さきがけ、共産党を選んだ人たちは、「人格よりも実行力だ」を「そうは思わない」と否定する比率が相対的に高くなっている。

「政治にはある程度秘密がつきもので、すべてをガラス張りにすることはむずかしいと思う」か「そうは思わないか」が、くわえて、「政治家には高潔な人格よりも実行力が必要だと思う」か「そうは思わないか」が、正・負双方の政党選択にみられる政党への志向性を弁別する重要な態度であるらしい。

これまでの検討結果を要約すると、第一に注目すべきことは、「嫌いな政党」と「選挙で選ぶ政党」とが、同一の基準にしたがってペアとなって認知されているということである。「嫌いな政党」が先行して認識されているといっても、それは、従来指摘され続けてきたような、特定の政党に対する政治文化ないし政治風土的な拒否感情に発するものではない。換言するならば、「拒否政党（嫌いな政党）」のみが、「支持政党（選挙で選ぶ政党）」とは脈絡なしに単独でイメージされているのではなく、すべての政党を横並びで比較する中で、「拒否政党」、「支持政党」の双方が対となってイメージされている。政党への志向性枠組みにおいて、複数の政党から構成される一種の「幅」の存在が

2. 22表 問16 (a～d) 4質問の因子分析

〔バリマックス回転後〕

	1	2
3 c. 政治家は、人格よりも実行力が必要とされる	0.803	0.045
2 b. 政治にはある程度秘密がつきものである	0.739	-0.167
1 a. 投票が、国政に意見を反映させる唯一の方法	0.022	0.786
4 d. 一般的に政治とは、国に関係したことである	0.122	-0.651

みとめられるものの、それは、「拒否政党」の残余としての「(消極的な) 支持の幅」ではなく、「拒否政党」と「支持政党」の組み合わせによって構成される「識別パターン」なのである。

そして、具体的にどの政党とどの政党とがペアになるのかという、組み合わせを弁別する要因として考えられるのは、現実の政治についてどのように評価しているかとか、自分自身が政治にどうかかわるかといった態度ではなく、政治や政治家に規範ないし倫理を求めるか否かという、いわば価値観の対立であった。問16の四つの質問についての因子分析の結果は、このことを明快に示している。

2・22表を参照されたい。cとbによって一つの因子が構成されている。「政治家は、人格よりも実行力で」、「政治には秘密がつきものでガラス張りはむずかしい」とするメンタリテイと、「政治家は、人格よりも実行力」を否定し、「政治をガラス張りにすること」をもとめるメンタリテイとが、明確に対立しあっている。前者を、リアリズム志向と呼び、後者を、アンチ・リアリズム志向と呼ぼう。¹⁶⁾

政治に対するリアリスティックな志向性とアンチ・リアリスティックな志向性というアンビバレントな二つの価値観の、そのどちらにより比重を置いているかが、政党の認知の仕方に大きくかわっているとするならば、若者による「選挙で選ぶ政党」や「嫌いな政党」の選択は、その場かぎりの気まぐれでは決してなく、若者みずからの有するメンタリテイの投影されたそれなりに重みのある選択であろう。むしろ、政治的判断の外的基準が消失したり見あたらない中で、内なる価値観のみをたよりに選択する、かれらのけなげな姿勢を評価すべきかもしれない。

ここでいうリアリズムとかアンチ・リアリズムとは、現存する政党のうちどれが現実主義的傾向の強い政党で、反対にどれが理想主義的傾向の強い政党かという、政党の位置づけや配置にかんする座標軸を意味するわけではない。というよりも、それは、若者自身に内在する座標軸を問題としている。かれらが政党を識別する仕方とは、おそらく次のような筋道ではなからうか。すなわち、マス・メディアを通じて発せられる政党（あるいは政治家）についての情報や映像は、みずからのメンタリテイないし価値観が投影された認知スクリーン上で解釈され、メンタリテイに合致する政党とそれに反する政党とが類別される、という道筋である。あるいは、メンタリテイに反する政党が先行して類別されるのかもしれない。「好きな政党」はないが「嫌いな政党」はある、そして、「選挙で選ぶ政党」はあるが「好きな政党」がない、そこには、「嫌いな政党」を起点とする識別ないし選択の筋道が存在しているように。もっとも、起点とは、かれらの政党イメージが活性化されるときの起点を意味しているにすぎない。

したがって、政党イメージの形成にかんしては、情報環境の影響が大きい。「嫌いな政党」と「選挙で選ぶ政党」とが対となるかたちでいくつかにグルーピングされるということは、たしかに、すべての政党が与件なく認識されていることを示唆しているように、それはまた、すべての政党を横並びで比較する画一的な認知スクリーンが共有されていることをも意味しているであろう。「リアリズム・アンチ・リアリズム」枠組みは、政党スキーマのうちでも、ポテンシャルの高い、しかも、活性化が比較的容易なスキーマであるといえるかもしれない。けれども、すこぶる安直で短絡的な認知枠組みではある。いずれにせよ、リアリズム志向とアンチ・リアリズム志向という対立する価値観は、個々人のレベルで、どのような社会化過程を経て形成され、定着していくのだろうか。われわれにとって、今後の大きな検討課題であることはいうまでもない。

さて、われわれは今回の調査によって、若者の政治意識における、つぎのような二つの傾向を確認することができた。第一は、政治から距離をおき私生活に充足していると思われる無党派層の若者たちも、政党に対する志向性とイメージを持ち合わせており、正・負両面での政党選択をおこなっていること、わけても、「嫌いな政党」の認知度が高いことである。第二は、正（支持）と負（拒否）がペアとなった政党の選択には、リアリズム志向かアンチ・リアリズム志向かという、みずからの価値観に発する認知スクリーンの介在が窺われることである。

もちろん、若者が表明した「選挙で選ぶべき政党」が、そのまま「投票政党」に直結するとはかぎらない。認知のレベルと実際の行動のレベルとの間には、かなりの距離があると推測される。問16の「選挙で投票することが、政治に意見を反映させる唯一の方法か」という質問に対して、圧倒的多数が「そうは思わない」と回答しているのは、選挙以外にも意見を反映させる方法があるということではなく、選挙という参加の装置そのものの有効性にかんする否定的な評価に起因しているよう。問10の「自分の意見を政治に反映させるには、どうするのがもっともよいか」という質問に対して、「なにをやってもむだだ」とする回答が選択される比率からも、同様の不信が読み取れる。先にも検討し、また、本稿の〔I〕でも指摘したように、政治の手応えをあまり感じられない中で選択された「選挙で投票すべき政党」である。だからといって、まったく意味のない選択というわけでは決してないだろう。

また、「リアリズム―アンチ・リアリズム」枠組みにしても、これが政党認知にかんする唯一の有効なスキーマであるとはかぎらない。むしろ、いくつもある政党スキーマの中では、投票行動への影響のもっとも小さいスキーマであるかもしれない。だとすれば、スキーマ共有の画一性やその内容の短絡さを嘆く前に、想定されうる他の有力なスキーマを検出することに努力すべきかもしれない。しかしながら、昨今の政治状況、とりわけ政党の在り様から類推

すると、われわれのこの「リアリズム—アンチ・リアリズム」スキーマは、現実に適応しているようにも思われる。政党識別パターンにせよ、「リアリズム—アンチ・リアリズム」枠組みにせよ、単に、未成年者を含む若者たちに特有の傾向とはかたづけられない、年齢的広がりをも有しているのではないだろうか。

- (1) たとえば、岡村の以下の論文を参照されたい。岡村忠夫、「現代日本における政治的社會化」政治意識の培養と政治家像」日本政治学会編『現代日本における政治態度の形成と構造』年報政治学一九七〇」岩波書店、一九七一年、所収。
 - (2) 三宅一郎、『日本の政治と選挙』東京大学出版会、一九九五年、三二頁。
 - (3) 三宅、前掲、三五頁。
 - (4) 中選挙区制下の総選挙は、政党内でおこなわれるべき予備選挙の機能も吸収していたといえよう。有権者にとれば、選挙で選択したのが、政党なのか、候補者なのか、それとも政策なのか、きわめてあいまいであったといえよう。
 - (5) この際、この回答選択肢は、つぎの通りである。「1. 自民党」・「2. 社会党」・「3. 民社党」・「4. 公明党」・「5. 共産党」・「6. 政党とは関係なく投票する」・「7. 棄権する」・「8. わからない」。岡村、前掲『現代日本における政治的社會化』、三七―三八頁。
 - (6) 松本正生、『世論調査と政党支持—戦後政党支持構造史』法政大学出版社、一九九一年、六九頁。
 - (7) 三宅、前掲、二二八頁。三宅はつづけて、「この方式だと、選択型の指標とちがって、各政党に対する好意度を測定することができる。そのうえで、好意も反感も持たない場合も一つの評価として好意のゾーンと反感のゾーンの中間に位置するものとする、有権者は、ある特定の基準に従ってすべての政党をこの広義の好意の尺度上に位置づけることができる。」と述べている。同右、二二八頁。ただ、その一方でつぎのような指摘もしている。「全政党に対する態度の準拠枠がただ一つであるときは一次元的な支持の幅の指標を作るのは容易だが、準拠枠が多いと多次的処理を必要としよう。そのとき、支持の「幅」という呼び方よりも、支持の「空間」という名がふさわしい。」三宅、『政党支持の分析』創文社、一九八五年、一〇九頁。
 - (8) スキーマとは、いわば、認知の枠組み、ないしは解釈モデルに相当する。すなわち、「スキーマとは、特定事象に関する因果的・相関的知識（信念）の構造であり、人間の限られた情報処理能力への負荷を軽減する認知の束である。」という。池田謙一、「情報処理過程としての投票行動—候補者の人スキーマの形成が投票行動に及ぼす影響」東京大学新聞研究所編『選挙報道と投票行動』東京大学出版会、一九八八年、所収、三〇二頁。そして、「スキーマは、与えられた感覚情報に不足している部分を補ったり、余分な情報を無視したりしながら、対象をかなり強引に「解釈」して認知する働きを持つ。」池田謙一・村田光一、「こころと社会—認知社会心理学への招待」東京大学出版会、一九九一年、6頁。
- 池田らによれば、スキーマには、基本形としての人スキーマのほかに、争点スキーマ、集団スキーマなどが存在し、集団スキーマの一類型として政党スキーマも想定されるという。政党スキーマにかんして、池田らは、つぎのように述べている。「例えば、「自民党」という政党組織に関して考えてみると、私たちはそれが組織としてどう振る舞うのかをおよそ予想していることに気づく。選挙の時と

のような公約をするのか(そしてどう破るのか)、国会をどう運営するのか、どのように組閣するのかといったことを、何となく予測できる。それは過去の自民党の活動に関する知識から生まれ、将来の自民党の活動の予測を導く枠組みとなっているだろう。確かに自民党は複雑な組織であり、それについてのさまざまな個別的知識を私たちは持っている。また、人カテゴリー・スキーマである「自民党政治家スキーマ」の占める部分も大きい。しかし、それと重複しながらも別個に、私たちは私たちがなりの「自民党スキーマ」を持ち、これを利用して日本の政治に関して推論や判断を行なっているだろう。」池田・村田、同右、七三頁。

(9) 調査実施当時の一九九四年八月および九月は、新進党はいまだ結成されていなかった。同党の結成は、同年の一月二月である。ただ、同年六月の村山政権発足によって、政党間の関係としての、自民・社会・新党さきがけの連立与党対新生・公明・日本新党・民社という構図はすでに形成されていた。

(10) 三宅、前掲『日本の政治と選挙』第六章を参照。

(11) 一人で複数の政党名を回答したものがいるので、総数は二九五をこえる。なお、パーセンテージは、二九五人を母数とした数値を示している。複数回答質問については、以下同様。

(12) なお、三宅一郎は、投票態度の決定にかんする「政党評価」の効果と「候補者評価」の効果との比較をおこなう中で、公明党と共産党は「党派的傘モデル」の適合率も高いが、「候補者評価モデル」の適合率も、自民党や社会党などに比べて高いことを指摘している。すなわち、「公明・共産」グループには(正確にはこのうち公明党だが)支持政党の候補者だけを認知し評価している人が比較的多いからである。」という。三宅、前掲『日本の政治と選挙』、五二頁。

(13) 政党支持の「幅」仮説は、すでに一九六〇年代において提唱されている。くわしくは、つぎの文献を参照されたい。三宅一郎・木下富雄・間場寿一、「政治意識構造論の試み」日本政治学会編『政治意識の理論と調査・年報政治学一九六五』岩波書店、一九六五年、所収。三宅・木下・間場、「異なるレベルにおける投票行動の研究」創文社、一九六七年。

なお、三宅は、「政党支持なし」の投票行動を分析した近著の中で、「政党支持の強度と方向を表すもうひとつの尺度に、政党支持の幅がある。政党支持の幅の広狭(拒否政党の数)は政党支持強度を表すといわれている。政党支持の幅が狭ければ(一党だけなら支持政党と同じ)、投票政党との一致率は高いはずである。だが、支持なしグループでは三党以内の狭い幅をもつ人の率は四人に一人ぐらいで、半数近くが「幅」そのものがない(全党が幅)。それゆえ、この尺度は投票政党の説明にほとんど役に立たない。」と述べている。三宅、前掲『日本の政治と選挙』、一七二頁。ただ、この指摘は、一九八三年時点で実施されたパネル調査の結果にもとづいてなされていることに留意する必要があるだろう。たとえば、朝日新聞社が静岡市の有権者を対象として最近おこなった四回にわたるパネル

調査（一九九五年三月、七月、一〇月、一二月）の結果は、「支持政党なし（無党派）」層のうちのほとんどが、「特定の一政党＋支持なし」という非常に狭い幅の中で移動していることを明らかにしている。「有権者はいま…静岡定点調査」「朝日新聞」一九九五年二月一三日付朝刊。

(14) 「そう思う」、「そうは思わない」のほかに、「わからない」という選択肢もあるので、総計は一〇〇%にはならない。

(15) 単純集計結果から両者の絶対数を比較すると、リアリズム志向を保有するものの方が、数においては優勢であるようだ。

(付記) 本稿は、われわれ兩名の共同作業によるものである。ただし、執筆に際しては、(Ⅰ)を岡村、(Ⅱ)を松本が分担した。この研究にあたり岡村が、一九九二年度と一九九四年度の法政大学特別研究助成金の交付を受けている。

大学生意識調査単純集計結果

【調査の概要】

調査対象

法政大学通信教育部 1994 年度夏期スクーリング「政治学概論」受講者

埼玉大学教養部 1994 年度「政治学」受講者

調査日時

法政大学：1994 年 8 月 9 日（火）

埼玉大学：1994 年 9 月 12 日（月）

調査方法

集合調査法（調査票配布）

回答形式

読み上げ方式・自記式

有効回収数

法政大学：188 名 埼玉大学：107 名 計 295 名

問 1. はじめにうかがいます。あなたはタバコを吸われますか、あるいは吸っていたことがありますか。 () 内は%

	全 体	1. 現在吸っている	2. 以前吸っていたことがある	3. 吸ったことはない	無回答
全 体	295(100.)	65(22.0)	56(19.0)	174(59.0)	-(-)

問 2. あなたが大切だと思うものを、順番に二つ選んでください。

【一番目】に選ばれたもの

() 内は%

	全 体	1. わたくしのしあわせ	2. 家庭のしあわせ	3. すみよい町や村	4. 日本が栄えること	5. 世界の平和	無回答
全 体	295(100.)	146(49.2)	87(29.5)	10(3.4)	4(1.4)	49(16.6)	-(-)

【二番目】に選ばれたもの

() 内は%

	全 体	1. わたくしのしあわせ	2. 家庭のしあわせ	3. すみよい町や村	4. 日本が栄えること	5. 世界の平和	無回答
全 体	295(100.)	63(18.0)	104(35.3)	34(11.5)	10(3.4)	94(31.9)	-(-)

問 3. あなたは、将来どのようなひとになりたいと思いますか、一つだけ選んでください。 () 内は%

	全 体	1. 社会のためにつくす人	2. しあわせな家庭をつくる人	3. お金をたくさんもつうける人	4. どんなことがあってもひとつ仕事を続ける人	5. 自分の好きなようにくらす人	6. 有名な人	7. その他	8. わからない	無回答
全 体	295(100.)	46(15.6)	104(35.3)	11(3.7)	10(3.4)	86(29.2)	5(1.7)	26(8.8)	7(2.4)	-(-)

問4. 日本はこれからどんな国になるのがよいと思いますか。あなたの一番希望するものを一つ選んでください。()内は%

	全体	1. 豊かな国	2. 平和な国	3. 自由な国	4. 平等な国	5. 外国と仲良くする国	6. 大きく強い国	7. わからない	無回答
全体	295(100.)	44(14.9)	113(38.3)	39(13.2)	37(12.5)	47(15.9)	10(3.4)	6(2.0)	-(-)

問5. さて、海部俊樹・宮沢喜一・細川護熙・羽田孜・村山富市の最近の五人の首相について、それぞれお聞きます。

5-a. 先ず、海部元首相は正直だと思いますか、うそつきだと思いますか。()内は%

	全体	1. とても正直	2. 正直	3. どちらともいえない	4. ときどきうそをつく	5. いつもうそをつく	6. わからない	無回答
全体	295(100.)	8(2.7)	76(25.8)	84(28.5)	56(19.0)	22(7.5)	49(16.6)	-(-)

5-b. 宮沢元首相は正直だと思いますか、うそつきだと思いますか。()内は%

	全体	1. とても正直	2. 正直	3. どちらともいえない	4. ときどきうそをつく	5. いつもうそをつく	6. わからない	無回答
全体	295(100.)	3(1.0)	16(5.4)	52(17.6)	92(31.2)	78(26.4)	54(18.3)	-(-)

5-c. 細川元首相は正直だと思いますか、うそつきだと思いますか。()内は%

	全体	1. とても正直	2. 正直	3. どちらともいえない	4. ときどきうそをつく	5. いつもうそをつく	6. わからない	無回答
全体	295(100.)	6(2.0)	26(8.8)	73(24.7)	100(33.9)	55(18.6)	35(11.9)	-(-)

5-d. 羽田前首相は正直だと思いますか、うそつきだと思いますか。()内は%

	全体	1. とても正直	2. 正直	3. どちらともいえない	4. ときどきうそをつく	5. いつもうそをつく	6. わからない	無回答
全体	295(100.)	14(4.7)	66(22.4)	99(33.6)	35(11.9)	23(7.8)	57(19.3)	1(0.3)

5-e. 村山首相は正直だと思いますか、うそつきだと思いますか。()内は%

	全体	1. とても正直	2. 正直	3. どちらともいえない	4. ときどきうそをつく	5. いつもうそをつく	6. わからない	無回答
全体	295(100.)	14(4.7)	58(19.7)	89(30.2)	45(15.3)	29(9.8)	59(20.0)	1(0.3)

問6. つぎに、首相としての責任をはたしているかどうかについて、それぞれお聞きします。

6-a. 先ず、海部元首相は、首相としての責任をはたしたでしょうか。

() 内は%

	全体	1. よく責任を はたした	2. まあ責任を はたした	3. どちらとも いえない	4. あまり責任 をはたして いない	5. ほとんど責 任をはたし ていない	6. わからない	無回答
全 体	295(100.)	22(7.5)	124(42.0)	52(17.6)	54(18.3)	26(8.8)	17(5.8)	-(-)

6-b. 宮沢元首相は、首相としての責任をはたしたでしょうか。

() 内は%

	全体	1. よく責任を はたした	2. まあ責任を はたした	3. どちらとも いえない	4. あまり責任 をはたして いない	5. ほとんど責 任をはたし ていない	6. わからない	無回答
全 体	295(100.)	3(1.0)	30(10.2)	50(16.9)	90(30.5)	99(33.6)	23(7.8)	-(-)

6-c. 細川元首相は、首相としての責任をはたしたでしょうか。

() 内は%

	全体	1. よく責任を はたした	2. まあ責任を はたした	3. どちらとも いえない	4. あまり責任 をはたして いない	5. ほとんど責 任をはたし ていない	6. わからない	無回答
全 体	295(100.)	16(5.4)	69(23.4)	46(15.6)	64(21.7)	91(30.8)	9(3.1)	-(-)

6-d. 羽田前首相は、首相としての責任をはたしたでしょうか。

() 内は%

	全体	1. よく責任を はたした	2. まあ責任を はたした	3. どちらとも いえない	4. あまり責任 をはたして いない	5. ほとんど責 任をはたし ていない	6. わからない	無回答
全 体	295(100.)	6(2.0)	37(12.5)	80(27.1)	60(20.3)	96(32.5)	16(5.4)	-(-)

6-e. 村山首相は、首相としての責任をはたしているでしょうか。

() 内は%

	全体	1. よく責任を はたした	2. まあ責任を はたした	3. どちらとも いえない	4. あまり責任 をはたして いない	5. ほとんど責 任をはたし ていない	6. わからない	無回答
全 体	295(100.)	9(3.1)	50(16.9)	108(36.6)	43(14.6)	40(13.6)	45(15.3)	-(-)

問7. ところで、つぎのことはこれからどうなると思いますか。あなたがそうなるだ
らうと思うものを選んでください。

7-a. 私たちの暮らし

() 内は%

	全体	1. よくなる	2. かわらない	3. わるくなる	4. わからない	無回答
全 体	295(100.)	33(11.2)	139(47.1)	84(28.5)	39(13.2)	-(-)

7-b. 日本の経済

() 内は%

	全体	1. よくなる	2. かわらない	3. わるくなる	4. わからない	無回答
全 体	295(100.)	63(21.4)	90(30.5)	103(34.9)	38(12.9)	1(0.3)

7-c. 日本の政治

() 内は%

	全体	1. よくなる	2. かわらない	3. わるくなる	4. わからない	無回答
全体	295(100.)	35(11.9)	151(51.2)	67(22.7)	42(14.2)	-(-)

7-d. 日本の自然

() 内は%

	全体	1. よくなる	2. かわらない	3. わるくなる	4. わからない	無回答
全体	295(100.)	14(4.7)	21(7.1)	250(84.7)	10(3.4)	-(-)

7-e. 世界の平和

() 内は%

	全体	1. よくなる	2. かわらない	3. わるくなる	4. わからない	無回答
全体	295(100.)	61(20.7)	90(30.5)	84(28.5)	59(20.0)	1(0.3)

問8. いまの日本の政治は実際に動かしている人は、誰だと思いますか。一つだけ選んでください。() 内は%

	全体	1. 国会議員	2. 官僚 (政府の 役人)	3. 首相(総 理大臣)	4. 国民一人 一人	5. 大企業 (大きな 会社)	6. マスコミ (新聞や テレビ)	7. その他	8. わからな い	無回答
全体	295(100.)	45(15.3)	154(52.2)	3(1.0)	5(1.7)	46(15.6)	20(6.8)	10(3.4)	11(3.7)	1(0.3)

問9. 国会議員は誰のために働いていると思いますか。一つだけ選んでください。() 内は%

	全体	1. 自分のた め	2. 自分の政 党のため	3. 自分を選 んだ地方 のため	4. 日本全体 のため	5. 世界のため	6. その他	7. わからな い	無回答
全体	295(100.)	185(62.7)	54(18.3)	24(8.1)	15(5.1)	-(-)	10(3.4)	7(2.4)	-(-)

問10. あなたの意見を政治の上に反映させるには、どうするのがもっともよいと思いますか。() 内は%

	全体	1. 選挙で投 票する	2. 国会議員 に訴える	3. 総理大臣 に手紙を 書く	4. 新聞に投 書する	5. 同じ意見 の人とデ モをする	6. 自分の支 持する政 党を応援 する	7. 何をやっ てもむだ だ	8. わからな い	無回答
全体	295(100.)	60(20.3)	15(5.1)	13(4.4)	39(13.2)	21(7.1)	27(9.2)	99(33.6)	19(6.4)	2(0.7)

問11. 国会議員といったとき、あなたが思いつくものを二つ選んでください。(2つ選択) () 内は%

	全体	1. 約束を守 る人	2. えらい人	3. みんなの ためにつ くす人	4. お金をこ っそりも らって悪 いことを する人	5. いばる人	6. うそをつ く人	7. その他	8. わからな い	無回答
全体	295(100.)	8(2.7)	45(15.3)	27(9.2)	194(65.8)	94(31.9)	154(52.2)	48(16.3)	15(5.1)	-(-)

問 12. つぎにあげる政党の党首は、誰でしょうか。人物リスト（ア～ソ）から選んでください。【得点評価】

() 内は%

	全 体	1. 0 点	2. 1 点	3. 2 点	4. 3 点	5. 4 点	6. 5 点	7. 6 点	8. 7 点	9. 8 点	平均値 (点)
全 体	295(100.)	14(4.7)	12(4.1)	20(6.8)	12(4.1)	25(8.5)	33(11.2)	60(20.3)	66(22.4)	53(18.0)	5.42

1. 自民党 2. 社会党 3. 新生党 4. 公明党 5. 日本新党 6. 新党さきがけ
7. 民社党 8. 共産党

回答リスト

ア. 石田幸四郎	イ. 市川雄一	ウ. 大内啓伍	エ. 小沢一郎
オ. 海部俊樹	カ. 河野洋平	キ. 武村正義	ク. 土井たか子
ケ. 橋本竜太郎	コ. 羽田孜	サ. 不破哲三	シ. 細川護熙
ス. 宮本顕治	セ. 村山富市	ソ. 米沢隆	

問 13. 日本や世界で起ることがらについて知りたいとき、あなたはどうしますか。順番に二つ選んでください。

【一番目】に選ばれたもの

() 内は%

	全 体	1. 新聞を見る	2. 雑誌を見る	3. ラジオを聴く	4. テレビを見る	5. 家族に聞く	6. 友人に聞く	無回答
全 体	295(100.)	104(35.3)	9(3.1)	6(2.0)	169(57.3)	4(1.4)	3(1.0)	-(-)

【二番目】に選ばれたもの

() 内は%

	全 体	1. 新聞を見る	2. 雑誌を見る	3. ラジオを聴く	4. テレビを見る	5. 家族に聞く	6. 友人に聞く	無回答
全 体	295(100.)	151(51.2)	17(5.8)	4(1.4)	103(34.9)	13(4.4)	7(2.4)	-(-)

問 14. テレビで、あなたがよくみるのはどんな番組ですか。よくみるものから順番に二つ選んでください。

【一番目】に選ばれたもの

() 内は%

	全 体	1. まんがや アニメ	2. ニュース	3. ドキュメ ンタリー などの特 集番組	4. クイズ 番組	5. コメデ ィーや お笑い 番組	6. ドラマ	7. スポー ツ	8. ワイド ショー	9. その他	無回答
全 体	295(100.)	4(1.4)	78(26.4)	33(11.2)	10(3.4)	49(16.6)	43(14.6)	57(19.3)	6(2.0)	15(5.1)	-(-)

【二番目】に選ばれたもの

() 内は%

	全 体	1. まんがや アニメ	2. ニュース	3. ドキュメ ンタリー などの特 集番組	4. クイズ 番組	5. コメデ ィーや お笑い 番組	6. ドラマ	7. スポー ツ	8. ワイド ショー	9. その他	無回答
全 体	295(100.)	6(2.0)	66(22.4)	56(19.0)	11(3.7)	50(16.9)	38(12.9)	51(17.3)	7(2.4)	7(2.4)	3(1.0)

問 15. あなたは、ここにあげる人々を信頼できますか、それとも信頼できませんか。

15-a. 総理大臣

() 内は%

	全 体	1. とても信頼できる	2. どちらかという信頼できる	3. どちらともいえない	4. どちらかという信頼できない	5. とても信頼できない	6. わからない	無回答
全 体	295(100.)	4(1.4)	38(12.9)	95(32.2)	89(30.2)	57(19.3)	12(4.1)	-(-)

15-b. 国会議員

() 内は%

	全 体	1. とても信頼できる	2. どちらかという信頼できる	3. どちらともいえない	4. どちらかという信頼できない	5. とても信頼できない	6. わからない	無回答
全 体	295(100.)	2(0.7)	14(4.7)	74(25.1)	102(34.6)	94(31.9)	9(3.1)	-(-)

15-c. 知事

() 内は%

	全 体	1. とても信頼できる	2. どちらかという信頼できる	3. どちらともいえない	4. どちらかという信頼できない	5. とても信頼できない	6. わからない	無回答
全 体	295(100.)	7(2.4)	56(19.0)	114(38.6)	52(17.6)	32(10.8)	34(11.5)	-(-)

15-d. 市(区・町・村)長

() 内は%

	全 体	1. とても信頼できる	2. どちらかという信頼できる	3. どちらともいえない	4. どちらかという信頼できない	5. とても信頼できない	6. わからない	無回答
全 体	295(100.)	15(5.1)	73(24.7)	87(29.5)	54(18.3)	39(13.2)	27(9.2)	-(-)

問 16. ここに国の政治について次のような意見があります。それぞれの意見について、あなたはそう思いますか、そうは思いませんか。

16-a. 「選挙で投票することが、国の政治に私たちの意見を反映させる唯一の方法である」

() 内は%

	全 体	1. そう思う	2. そうは思わない	3. わからない	無回答
全 体	295(100.)	53(18.0)	223(75.6)	19(6.4)	-(-)

16-b. 「政治にはある程度秘密がつきもので、すべてをガラス張りにすることはむづかしい」

() 内は%

	全 体	1. そう思う	2. そうは思わない	3. わからない	無回答
全 体	295(100.)	155(52.5)	116(39.3)	24(8.1)	-(-)

16-c. 「政治家には高潔な人格よりも実行力が必要とされる」

() 内は%

	全体	1. そう思う	2. そうは思わない	3. わからない	無回答
全体	295(100.)	163(55.3)	86(29.2)	46(15.6)	-(-)

16-d. 「一般に政治というとき、それは市区町村とはあまり関係がなく、主に国に関係したことである」

() 内は%

	全体	1. そう思う	2. そうは思わない	3. わからない	無回答
全体	295(100.)	150(50.8)	133(45.1)	11(3.7)	1(0.3)

問 17. よく政治で保守とか革新とかいわれますが、あなたが自分をどちらかに位置づけるとしたら、保守でしょうか革新でしょうか。() 内は%

	全体	1. 保守にはいると思う	2. 革新にはいると思う	3. どちらにもあてはまらないと思う	4. 保守・革新の意味がよくわからない	無回答
全体	295(100.)	76(25.8)	110(37.3)	76(25.8)	32(10.8)	1(0.3)

問 18. あなたは、総選挙で投票するとき、どのような基準を重視して投票しますか。つぎの中から一つだけ選んでください。() 内は%

	全体	1. 候補者の所属政党	2. 候補者のイメージ	3. 候補者の公約	4. 候補者の実績	5. 時と場合による	6. わからない	無回答
全体	295(100.)	69(23.4)	35(11.9)	47(15.9)	39(13.2)	93(31.5)	11(3.7)	1(0.3)

問 19. 現在、日本には、自民党・社会党・新生党・公明党・日本新党・新党さきがけ・民社党・共産党などの政党がありますが、あなたには好きな政党がありますか。ありましたら、その政党名をお答えください(複数でもかまいません)。また、なければ、「なし」とお書きください。() 内は%

	全体	1. 自民党	2. 社会党	3. 新生党	4. 公明党	5. 日本新党	6. 新党さきがけ	7. 民社党	8. 共産党	9. 新党みらい
全体	295(100.)	16(5.4)	13(4.4)	23(7.8)	3(1.0)	12(4.1)	21(7.1)	1(0.3)	21(7.1)	-(-)

上表つづき	10. 自由党	11. なし	12. その他	無回答
	-(-)	204(69.2)	3(1.0)	-(-)

問20. それでは、好きな政党があるかないかは別にして、選挙で選ぶとすれば、どの政党を選びますか（複数でもかまいません）。また、なければ、「なし」とお書きください。（ ）内は%

	全 体	1. 自民党	2. 社会党	3. 新生党	4. 公明党	5. 日本新党	6. 新党さきがけ	7. 民社党	8. 共産党	9. 新党みらい
全 体	295(100.)	69(23.4)	43(14.6)	61(20.7)	8(2.7)	45(15.3)	66(22.4)	8(2.7)	34(11.5)	-(-)

上表つづき

10. 自由党	11. なし	12. その他	無回答
-(-)	24(8.1)	12(4.1)	-(-)

問21. 今度は逆に、嫌いな政党がありますか。ありましたら、その政党名をお答えください（複数でもかまいません）。また、なければ、「なし」とお書きください。（ ）内は%

	全 体	1. 自民党	2. 社会党	3. 新生党	4. 公明党	5. 日本新党	6. 新党さきがけ	7. 民社党	8. 共産党	9. 新党みらい
全 体	295(100.)	90(30.5)	64(21.7)	54(18.3)	85(28.8)	30(10.2)	21(7.1)	22(7.5)	86(29.2)	1(0.3)

上表つづき

10. 自由党	11. なし	12. その他	無回答
1(0.3)	51(17.3)	5(1.7)	-(-)

問22. つぎにあげる言葉から、あなたが連想される政党はどれでしょうか。ありましたら、その政党名をあげてください（複数でもかまいません）。

22-a. 保守

()内は%

	全 体	1. 自民党	2. 社会党	3. 新生党	4. 公明党	5. 日本新党	6. 新党さきがけ	7. 民社党	8. 共産党	9. 新党みらい
全 体	295(100.)	238(80.7)	56(19.0)	34(11.5)	13(4.4)	11(3.7)	17(5.8)	18(6.1)	15(5.1)	1(0.3)

上表つづき

10. 自由党	11. なし	12. その他	無回答
2(0.7)	1(0.3)	1(0.3)	22(7.5)

22-b. 革新

()内は%

	全体	1. 自民党	2. 社会党	3. 新生党	4. 公明党	5. 日本新党	6. 新党さきがけ	7. 民社党	8. 共産党	9. 新党みらい
全体	295(100.)	6(2.0)	63(21.4)	90(30.5)	9(3.1)	65(22.0)	59(20.0)	2(0.7)	68(23.1)	-(-)

上表つづき

	10. 自由党	11. なし	12. その他	無回答
	-(-)	-(-)	1(0.3)	52(17.6)

22-c. ハト派

()内は%

	全体	1. 自民党	2. 社会党	3. 新生党	4. 公明党	5. 日本新党	6. 新党さきがけ	7. 民社党	8. 共産党	9. 新党みらい
全体	295(100.)	29(9.8)	66(22.4)	13(4.4)	16(5.4)	19(6.4)	42(14.2)	24(8.1)	10(3.4)	-(-)

上表つづき

	10. 自由党	11. なし	12. その他	無回答
	1(0.3)	-(-)	-(-)	123(41.7)

22-d. タカ派

()内は%

	全体	1. 自民党	2. 社会党	3. 新生党	4. 公明党	5. 日本新党	6. 新党さきがけ	7. 民社党	8. 共産党	9. 新党みらい
全体	295(100.)	42(14.2)	23(7.8)	73(24.7)	14(4.7)	6(2.0)	11(3.7)	6(2.0)	41(13.9)	1(0.3)

上表つづき

	10. 自由党	11. なし	12. その他	無回答
	2(0.7)	-(-)	2(0.7)	121(41.0)

問23. あなたの子どもの時とくらべて、今の子どもは、しっかりした考えを持っていると思いますか。()内は%

	全体	1. そう思う	2. そうは思わない	3. わからない	無回答
全体	295(100.)	58(19.7)	177(60.0)	60(20.3)	-(-)

問24. あなたが今までで、一番印象に残っている政治上の事件や出来事は何でしょうか。できるだけ具体的に書きください。(自由回答)

問 25. <日本に生まれた方のみにお聞きします>

あなたは、日本に生まれてよかったと思いますか。

() 内は%

	全 体	1. はい	2. いいえ	無回答
全 体	295(100.)	266(90.2)	27(9.2)	2(0.7)

F1. あなたは、男性ですか、それとも女性ですか。

() 内は%

	全 体	1. 男 性	2. 女 性	無回答
全 体	295(100.)	191(64.7)	104(35.3)	-(-)

F2. あなたの年齢はおいくつですか。

() 内は%

	全 体	1. 19歳以下	2. 20～21歳	3. 22～23歳	4. 24～25歳	5. 26～29歳	6. 30～39歳	7. 40歳以上	無回答	平均値 (歳)
全 体	295(100.)	78(26.4)	61(20.7)	56(19.0)	31(10.5)	25(8.5)	26(8.8)	16(5.4)	2(0.7)	24.04

F3. あなたは、現在、何年生ですか。

() 内は%

	全 体	1. 1年生	2. 2年生	3. 3年生	4. 4年生	無回答
全 体	295(100.)	133(45.1)	65(22.0)	46(15.6)	50(16.9)	1(0.3)

F4. あなたのお住まいの近くには、農家や田畑がありますか。

() 内は%

	全 体	1. あ る	2. な い	無回答
全 体	295(100.)	204(69.2)	90(30.5)	1(0.3)

F5. あなたの現在のお住まいは、一戸建てですか、それともマンション・アパート等の集合住宅ですか。

() 内は%

	全 体	1. 一戸建て	2. 集合住宅	無回答
全 体	295(100.)	159(53.9)	136(46.1)	-(-)

F6. あなたのご家庭で購読されている新聞は何ですか (複数でも構いません)。

() 内は%

	全 体	1. 朝 日	2. 読 売	3. 毎 日	4. 日 経	5. 産 経	6. その他	無回答
全 体	295(100.)	114(38.6)	100(33.9)	24(8.1)	22(7.5)	8(2.7)	64(21.7)	20(6.8)